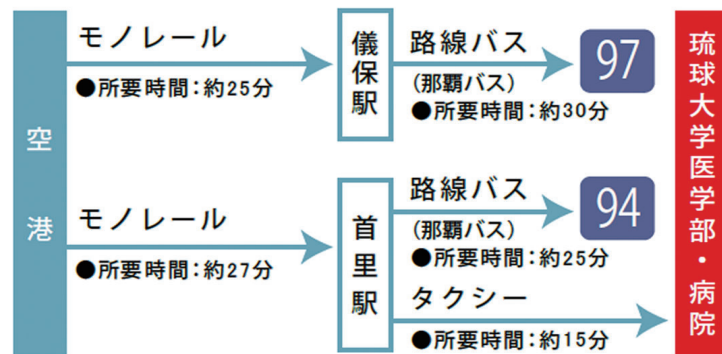




那覇空港からモノレール



那覇空港からタクシー

所要時間: 約35分

路線: ●空港→沖縄自動車道→琉球大学医学部・病院

●空港→那覇うみそらトンネル→国道330号→  
琉球大学医学部・病院

那覇バスターミナルから

路線バス (20~30分に1本)

**97** 番線 (琉大線) 那覇バス株式会社

所要時間: 約50分

のりば: 那覇バスターミナル(那覇市泉崎)8番のりば

路線: バスターミナル(泉崎)→国際通り(牧志)→宜保(首里)  
→琉球大学病院前



琉球大学病院

University of the Ryukyus Hospital

〒903-0215  
沖縄県中頭郡西原町字上原207番地  
TEL: 098-895-3331 (代)  
<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/>



# 琉球大学病院概要

University of the Ryukyus Hospital  
Guide Book

2020-2021



## Contents

病院長挨拶	1
理念及び基本方針	2
沿革	3
歴代病院長	4
新キャンパス移転計画	5
組織図	7
職員	8
診療科	11
中央診療施設等	22
数字で見る琉大病院	31
フロアガイド	32
建物配置図	33
土地及び建物	34
アクセス	35



プロフィール

九州大学医学部卒業。米シンシナティ大学医学部生理学教室留学、九州大学医学部（第二内科）助手、講師を経て、2002年より琉球大学医学部附属病院第三内科助教授。2009年より琉球大学大学院医学研究科循環器・腎臓・神経内科学講座教授。2019年4月より琉球大学医学部附属病院（2020年4月から琉球大学病院）の病院長に就任。琉球大学理事・副学長も兼任する。

## 病院長挨拶

琉球大学病院長

# 大屋 祐輔

本院は大学病院、特定機能病院としてのガバナンス体制強化のため、2020年4月より琉球大学医学部附属病院から琉球大学病院と名称が変わりました。また、本院は1970年に設立されたことから、今年は50周年目の記念すべき節目でもあります。これまで病院の紹介は、琉球大学医学部・附属病院概要の中に取りまとめて記載されていましたが、この節目の機会に概要を病院独自で作ることとなりました。琉球大学病院のミッションや特色について、よりご理解いただければ幸いです。

本院は、「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する」を理念として掲げています。「病める人の立場に立った、質の高い医療」とは、安全・安心であり、信頼される医療のこと、また、患者本位の医療のことを指すと考えます。また、沖縄の地域性を考えると、本院は地域完結医療の「最後の砦」として、急性期医療等の総合的診療から専門性の高い先進・高度医療までの幅広い診療を行うことも求められています。さらに、医学部とともに人材育成機関として、地域医療を理解する医療者の育成、および離島や北部地域の人材派遣などの支援を通して沖縄の地域医療を守ることも使命の一つです。加えて、ロボット、AI、ICTなどの先端技術を生かした新しい医療の開発、医学研究科との連携による細胞工学やゲノム科学などに根ざした様々な先進医療の開発、さらに、それらを沖縄県の医療産業の振興と連携しながら進めることも期待されています。

さて、琉球大学医学部と大学病院は、2024(令和6)年度末に西普天間の米軍住宅返還跡地に移転する予定です。本移転計画は、国家プロジェクトとして進行しており、「国際化」、「人材育成」、「先端研究・産業振興」、「医療水準の向上」の4つの柱を中心にさまざまなプロジェクトを実施中です。沖縄の未来の医療を創造すること、それらと沖縄から、全国、アジア、世界に発信することを目指しています。

琉球大学は、“Land Grant University”の理念のもと、地域との共生・協働によって、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指しています。琉球大学病院も、沖縄の地域に根ざし、その上に、高度で先進的な医療を提供することを目指しています。引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

# 琉球大学病院の 理念及び基本方針

## 理念

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、  
地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。

At the University Hospital, we aim to provide high quality healthcare from the patients' prospective and train excellent medical professionals and staff to have the ability to contribute to society.

## 基本方針

- 1) 生命の尊厳を重んじた人間性豊かな医療の実践  
Provide medical treatment to ensure dignity of life and humanity
- 2) 地域の医療・保健・福祉に対する貢献  
Contribute to medical care, health care and welfare to the local communities
- 3) 先進医療技術の開発・応用・評価  
Develop, apply, and assess advanced medical technologies
- 4) 専門性及び国際性を備える優れた医療人の育成  
Train excellent physicians and surgeons to be specialists and global minded
- 5) 働きやすくやりがいのある職場環境の整備  
Create a rewarding workplace for employees

## 施設認定

- ◎医療法第4条の2に定める 特定機能病院
- ◎厚生労働省指定 都道府県がん診療連携拠点病院
- ◎沖縄県 エイズ治療の中核拠点病院 / 感染症指定医療機関  
へき地医療拠点病院 / 肝疾患診療連携拠点病院

他

# 沿革

昭和40年	8月	佐藤栄作総理大臣が来沖し「琉球大学に医学部を設置する」との声明を発表。
	12月	琉球政府内に琉球大学医学部設置構想委員会を設置。
昭和41年	7月	第一次琉球大学医学部設置調査団が来沖し「医療の基礎的条件を整備するための基本的態度と医療要員の要請に関する準備的措置要領」を発表。
	11月	第二次調査団が来沖し、次の4原則を確立。 1.県立中部病院をインターン指導の教育病院とする。 2.琉球大学に保健学部を新設する。 3.那覇病院を改築し、教育病院とする。 4.公衆衛生の施策を強化する。
昭和42年	1月	琉球政府は、行政主席の諮問機関として、琉球大学医学部設置準備委員会を設置し教育機能と地域医療機能を併有する新病院建設基本構想を検討した。
	5月	本土側施設整備専門部会と沖縄側専門委員会が新那覇病院建設計画について討議し、将来は医学部教育病院としての機能を持ち、当面は保健学部の実習も兼ねた総合病院とすることになった。
昭和43年	5月	琉球大学設置法の一部改正により、保健学部（定員数60名）を設置。
昭和44年	4月	保健学部の第一期生59名が入学。
昭和45年	6月	琉球大学設置法の一部改正により新那覇病院は琉球大学附属病院となった。
昭和47年	5月	本土復帰に伴い琉球大学附属病院は、琉球大学保健学部附属病院となった。
昭和49年	11月	地域医療部、救急部、理学療法部が随時設置され、総合病院として承認。
昭和50年	3月	臨床研修指定病院となった。
昭和52年	4月	琉球大学医学部創設準備室を設置。
昭和55年	8月	本学の関連教育病院（県立中部病院）について本学学長と沖縄県知事の間で協定を締結。
昭和56年	4月	保健学部が医学部保健学科に改組。保健学部附属病院は医学部附属病院に改称。
昭和58年	12月	附属病院、中央設備機械室竣工。
昭和59年	3月	授乳施設、高エネルギー・高気圧治療施設棟竣工。
	7月	7月1日～10月14日、新病院移転・開院準備のため休診。
	10月	医学部附属病院（400床）の完成に伴い、診療を再開。
昭和60年	4月	第三内科が新設され、計17診療科となる。病床数が200床増床され、計600床となる。
	6-7月	200床増床に伴い、病棟移転が行われた。
昭和61年	4月	高気圧治療部設置。
昭和62年	3月	RI診療棟竣工。
平成元年	3月	リニアック診療施設棟竣工。
	5月	輸血部設置。
平成3年	3月	MRI-CT装置棟竣工。精神病棟（40床）承認。（一般病床から精神病棟へ）
平成6年	8月	特定機能病院承認。
平成7年	4月	血液浄化療法部設置。
平成9年	4月	医療情報部設置。
平成11年	4月	周産母子センター設置。

平成12年	4月	病理部設置。
平成13年	4月	光学医療診療部設置。
平成15年	3月	理学療法部廃止。
	4月	リハビリテーション部設置。
平成18年	2月	リハビリテーションセンター（作業療法棟）竣工。
平成19年	3月	エイズ診療拠点病院に指定。
平成20年	2月	都道府県がん診療連携拠点病院に指定。
平成21年	11月	沖縄県肝疾患診療連携拠点病院に指定。
平成22年	4月	骨髄移植センターの設置認可。
平成23年	1月	寄附講座（地域医療システム学講座、地域医療教育開発講座）を設置。
	12月	卒後臨床研修センター・血液浄化療法部棟竣工。
平成24年	3月	おきなわクリニカルシミュレーションセンター竣工。
	4月	病理診断科設置。
平成25年	2月	機能画像診断センター竣工。
平成26年	11月	救急災害医療棟竣工。
	12月	沖縄県地域医療支援センター設置。
平成27年	2月	救急科設置。
	3月	形成外科設置。
	4月	検査部と輸血部が統合され、検査・輸血部設置。
平成28年	4月	リハビリテーション科設置。
	8月	臨床工学室設置。
	10月	在宅医療推進センター設置。
平成29年	9月	超音波センター設置。
令和2年	4月	琉球大学医学部附属病院から琉球大学病院に改称。

## 《歴代病院長》

### ■保健学部 附属病院長

植村 操（初代保健学部附属病院長）	昭和46年7月
田端 辰夫	昭和48年11月
榎屋 富一	昭和50年1月
鈴木 淳	昭和51年4月
正義 之	昭和53年4月
三村 悟郎	昭和55年4月

### ■医学部 附属病院長

小張 一峰（初代医学部附属病院長）	昭和56年4月
福田 雅俊	昭和62年4月
茨木 邦夫	平成3年4月
平山 清武	平成5年4月
柗山 幸志郎	平成9年4月
小椋 力	平成10年4月
金澤 浩二	平成12年4月
古謝 景春	平成14年4月
瀧下 修一	平成16年4月
須加原 一博	平成20年4月
村山 貞之	平成23年4月
國吉 幸男	平成26年1月
藤田 次郎	平成27年4月
大屋 祐輔	平成31年4月

# 移 転 計 画

琉球大学医学部及び病院は、沖縄健康医療拠点の中核として、令和6年度にキャンブ瑞慶覧(西普天間住宅地区跡地)に移転します。

医学部及び病院では、「国際化」、「人材育成」、「先端研究・産業振興」、「医療水準の向上」を移転構想の柱とし、沖縄振興や長寿県沖縄の復活、国際保健(グローバル・ヘルス)への貢献を目指しています。

また、この計画は、駐留軍用地跡地利用の先行モデルとして注目されています。



## 新しい医学部・病院のイメージ

※外観イメージは基本設計段階でのものであり、今後の計画の進捗により変更になる可能性があります。



空から見た移転予定地



移転に先立ち、学生及び皆様へ、より快適で安全な医学教育・研究・診療環境を提供するために、沖縄健康医療推進基金を設立しました。皆様のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



# 移 転 構 想

## 国際化

～未来を拓く国際性豊かな医療拠点～

国際水準の教育と医療の実現、また研究体制の構築に向け、国際医療拠点に相応しい機能と設備の整備を進めます。

- 医学部と病院の国際認証の取得
- 国内外の大学、医療機関、企業等との積極的な連携
- 国際医療拠点に相応しい病院環境の整備
- 保育園、授乳室、障がい者対応施設等のダイバーシティ(多様性)に対応したアメニティの充実

## 人材育成

～国際的な医療人材の育成と交流拠点の形成～

ニーズに柔軟に対応でき、また国際的に通用する教育システムの構築を進めるとともに、国内外大学等との連携体制の強化を図ります。

- グローバルな視野を持った医療者、医学研究者の育成
- 研究マインドを身に付けさせるための学段落階からの研究室配属
- 看護部と保健学科の連携による高度実践看護師の育成
- 海外大学と連携したクリニカルクラークシップ(臨床参加型実習)の充実
- 病院内における教育スペースの確保

## 先端研究・産業振興

～世界に誇れる医学研究拠点の形成と産業振興～

沖縄特有の環境や資源を活かしつつ、最先端分野の研究の充実を図るとともに、人材が集まる組織の枠を超えた研究組織の構築を目指します。

- 先端医学研究センターを中心とした創薬等の最先端分野の研究
- 医工連携による医療機器等の開発
- 国、企業、近隣大学、研究機関から優秀な人材が集まる仕組みの構築
- 産業振興による地域の活性化
- 国内・国際学会開催による来訪者の増加

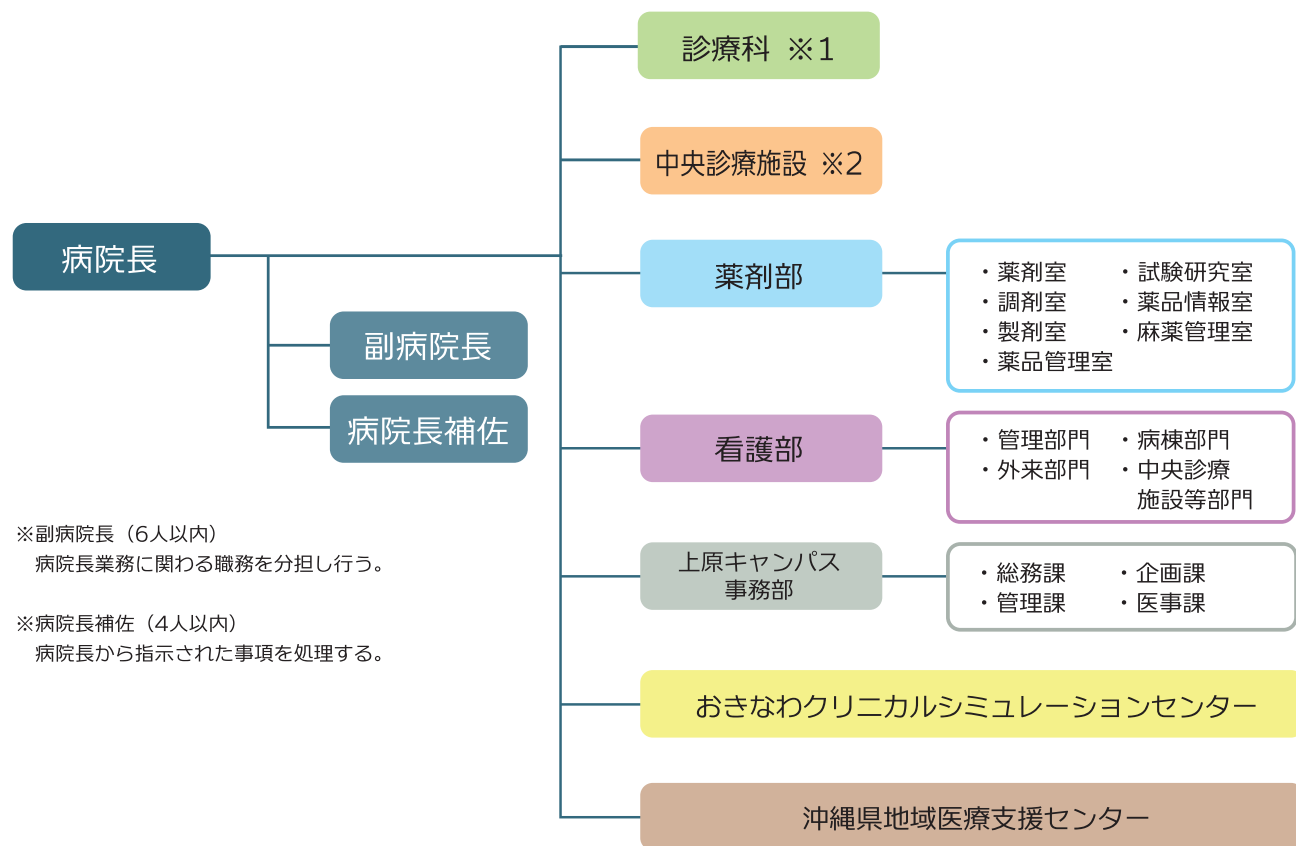
## 医療水準の向上

～高度医療の提供による拠点形成～

中核病院としてがんや救急医療、また移植医療等への対応強化を図るとともに、災害対応や遠隔診療等の更なる充実により医療水準の向上を目指します。

- 化学療法や放射線治療分野の充実によるがん治療成績の向上
- 高度救命救急センターの設置
- 生体肝移植等の移植医療の充実
- 先進的医療に対応した手術室の充実
- 日帰り手術、光学診療等の充実による低侵襲治療の推進
- 沖縄県地域医療支援センターを拠点とした離島・へき地医療の充実

# 組織図



※副病院長（6人以内）  
病院長業務に関わる職務を分担し行う。

※病院長補佐（4人以内）  
病院長から指示された事項を処理する。

※1

診療科 (21 科)	
■ 第一内科	■ 腎泌尿器外科
■ 第二内科	■ 耳鼻咽喉科
■ 第三内科	■ 眼科
■ 第一外科	■ 精神科神経科
■ 第二外科	■ 放射線科
■ 脳神経外科	■ 麻酔科
■ 整形外科	■ 歯科口腔外科
■ 形成外科	■ 病理診断科
■ 産科婦人科	■ 救急科
■ 小児科	■ リハビリテーション科
■ 皮膚科	

※2

中央診療施設等 (41 施設)	
■ 検査・輸血部	■ ME機器センター
■ 手術部	■ 遺伝カウンセリング室
■ 地域・国際医療部	■ 歯科医師臨床研修支援室
■ 救急部	■ 口唇口蓋裂センター
■ 放射線部	■ 障がい者歯科センター
■ 材料部	■ 臨床研究支援センター
■ 集中治療部	■ がんセンター
■ 高気圧治療部	■ 医療福祉支援センター
■ 血液浄化療法部	■ 口腔ケアセンター
■ 医療情報部	■ 遠隔画像診断センター
■ 周産母子センター	■ 機能画像診断センター
■ 病理部	■ 総合臨床研修・教育センター
■ 光学医療診療部	■ 臨床研修センター
■ リハビリテーション部	■ キャリア形成支援センター
■ 感染対策室	■ 栄養管理部
■ 総合診療センター	■ 診療情報管理センター
■ 医療の質・安全管理部	■ 臨床研究教育管理センター
■ 安全管理対策室	■ 在宅医療推進センター
■ 医療の質向上対策室	■ 超音波センター
■ 高難度新規医療技術等医療安全評価室	■ 沖縄県認知症疾患医療センター
■ 経営企画室	■ 心臓血管低侵襲治療センター
■ 臨床工学室	■ きこえの支援センター
	■ みらいバンク

# 職員

## 職員数 Number of Staff Member

令和 2 年 5 月 1 日現在  
(as of May 1, 2020)

職種区分 Classification	医学部 Faculty of Medicine		医学研究科 Graduate School of Medicine		大学病院 University Hospital		上原キャンパス事務部 Administration Division of Uehara Campus	
	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff
教授 Professors	17 [4]	0	35	0	8 [5]	0	0	0
准教授 Associate Professors	7	0	24 [1]	0	11 [6]	0	0	0
講師 Lecturers	6 [1]	0	1	0	29 [5]	0	0	0
助教 Assistant Professors	15 [2]	0	71 [4]	1 [1]	68 [9]	0	0	0
医員 Medical Staffs	0	0	0	0	0	192	0	0
専門指導医 Medical Directors	0	0	0	0	0	14	0	0
研修医 Residents	0	0	0	0	0	32	0	0
ポスドク研究員 Postdoctoral Fellows	0	1	0	0	0	2	0	0
産学官連携研究員 Research Fellows	0	1	0	0	0	0	0	0
特命研究員 Specially Appointed Fellows	0	0	2 [2]	0	0	0	0	0
事務系職員 Administrative Staffs	7	44	1 [1]	0	14 [7]	80	101	56
技能職員 Technical Staffs	36	61	0	0	16 [3]	43	0	6
医療系職員 Paramedical	0	0	0	0	183 [3]	15	0	0
看護師 Nurses	0	0	0	0	682	26	0	0
看護助手 Nurses Aides	0	0	0	0	0	65	0	0
教務職員 Research Associates	1	1	0	0	0	0	0	0
<b>合計 Total</b>	<b>89 [7]</b>	<b>108</b>	<b>134 [8]</b>	<b>1 [1]</b>	<b>1011 [38]</b>	<b>469</b>	<b>101</b>	<b>62</b>

注：[ ]は特命教職員で内数  
注：長期休暇者(育児休業者など)を除く

## 病院長(併) director

教授 大屋 祐輔

## 副病院長(併) Vice-director

経営担当 教授 青木 陽一  
医療安全担当 教授 鈴木 幹男  
診療・臨床研究担当 教授 中西 浩一  
教育研修担当 教授 垣花 学  
医療の質担当 特命教授 平田 哲生  
看護及び患者支援 看護部長 大嶺 千代美

## 病院長補佐(併) Assistance Director

広報・イノベーション担当 教授 清水 雄介  
臨床倫理・環境  
患者サービス担当 教授 齋藤 誠一  
臨床研究倫理  
遠隔医療担当 教授 高橋 健造  
男女共同参画  
働き方改革担当 教授 銘苺 桂子

## 診療科 Clinical Divisions

第一内科長(併) 教授 藤田 次郎  
第二内科長(併) 教授 益崎 裕章  
第三内科長(代行) 特命教授 岩淵 成志  
第一外科長(併) 教授 高槻 光寿  
第二外科長(併) 教授 古川 浩二郎  
脳神経外科長(併) 教授 石内 勝吾  
整形外科長(併) 教授 西田 康太郎  
形成外科長(併) 教授 清水 雄介  
産科婦人科長(併) 教授 青木 陽一

小児科長(併) 教授 中西 浩一  
皮膚科長(併) 教授 高橋 健造  
腎泌尿器外科長(併) 教授 齋藤 誠一  
耳鼻咽喉科長(併) 教授 鈴木 幹男  
眼科長(併) 教授 古泉 英貴  
精神科神経科長(併) 教授 近藤 毅  
放射線科(併) 教授 村山 貞之  
麻酔科長(併) 教授 垣花 学  
歯科口腔外科(併) 教授 中村 博幸  
病理診断科長(併) 教授 和田 直樹  
救急科長(併) 教授 久木田 一朗  
リハビリテーション科長(代行) 教授 大屋 祐輔

## 中央診療施設等 Clinical Facility Centers

検査・輸血部長(併) 教授 前田 士郎  
手術部長(併) 教授 鈴木 幹男  
地域・国際医療部長(併) 教授 久木田 一朗  
救急部長(併) 教授 久木田 一朗  
放射線部長(併) 教授 村山 貞之  
材料部長(併) 教授 齋藤 誠一  
集中治療部長(併) 教授 垣花 学  
高気圧治療部長(併) 特命教授 堂籠 博  
血液浄化療法部長 准教授 古波蔵 健太郎  
医療情報部長(併) 特命教授 平田 哲生  
周産母子センター部長 診療教授 正本 仁

病理部長(併) 教授 加留部 謙之輔  
光学医療診療部長 診療教授 外間 昭  
リハビリテーション部長(代行) 教授 大屋 祐輔  
感染対策室長(併) 教授 藤田 次郎  
総合診療センター(併) 教授 藤田 次郎  
医療の質・安全管理部長(併) 教授 鈴木 幹男  
安全管理対策室長(併) 特命助教 西平 淳子  
医療の質向上対策室(併) 特命教授 平田 哲生  
高難度新規医療技術等医療  
安全評価室長(併) 教授 鈴木 幹男  
経営企画室長(併) 教授 青木 陽一  
臨床工学室長(併) 教授 青木 陽一  
ME機器センター長(併) 教授 久木田 一朗  
遺伝カウンセリング室長(併) 教授 中西 浩一  
歯科医師臨床研修支援室長(併) 教授 中村 博幸  
口唇口蓋裂センター長(併) 教授 中村 博幸  
障がい者歯科センター長(併) 教授 中村 博幸  
臨床研究支援センター長(併) 教授 植田 真一郎  
がんセンター長 診療教授 増田 昌人  
医療福祉支援センター長(併) 特命教授 平田 哲生  
口腔ケアセンター長(併) 教授 中村 博幸  
遠隔画像診断センター長(併) 教授 村山 貞之  
機能画像診断センター長(併) 教授 村山 貞之  
総合臨床研修・教育センター長(併) 教授 大屋 祐輔  
栄養管理部長(併) 教授 益崎 裕章

診療情報管理センター長(併) 特命教授 平田 哲生  
臨床研究教育管理センター長(併) 教授 植田 真一郎  
在宅医療推進センター長(併) 教授 久木田 一朗  
超音波センター長(併) 特命教授 岩淵 成志  
沖縄県認知症疾患  
医療センター長(併) 教授 近藤 毅  
心臓血管低侵襲  
治療センター長(併) 特命教授 岩淵 成志  
きこえの支援センター長(併) 教授 鈴木 幹男  
みらいバンク長(併) 教授 清水 雄介

## 薬剤部 Department of Pharmacy

部長 教授 中村 克徳

## 看護部 Department of Nursing

部長 大嶺 千代美

## おきなわクリニカルシミュレーションセンター Okinawa Clinical Simulation Center

センター長(併) 教授 大屋 祐輔

## 沖縄県地域医療支援センター Okinawa Community Medicine Support Center

センター長(併) 教授 大屋 祐輔

## 上原キャンパス事務部 Administration Division of Uehara Campus

事務部長 鬼村 博幸  
総務課長 金城 不二子  
企画課長 小渡 志保子  
管理課長 照屋 智  
医事課長 高橋 圭郎

# 診療科

## 第一内科

〔診療科長〕  
藤田 次郎

主な  
対象疾患

- 呼吸器疾患(肺癌、間質性肺炎、COPD、気管支喘息、胸膜疾患ほか)
- 感染症(HIV、新型コロナウイルス感染症、輸入感染症および感染症全般)
- ウイルス性肝炎、自己免疫性肝炎、生活習慣関連肝疾患、肝移植関連
- 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病など)
- 消化器がん(内視鏡治療、化学療法)



### 診療内容

呼吸器グループは「呼吸器疾患のジェネラリスト」を目指して様々な疾患の診療に携わっております。肺癌、間質性肺炎、COPDといった一般的な疾患からリンパ脈管筋腫症、移植後GVHDといった稀な疾患まで幅広く診療しております。また気管支内視鏡においても診断のための生検以外に気管支充填術やステント挿入術(呼吸器外科と協力)といった内視鏡を用いた治療も積極的に行っています。

感染症診療ではエイズ診療中核拠点病院として質の高いHIV診療を行っています。また国立大学病院では珍しい第一種、二種感染症病床と結核病床を有しており沖縄県における感染症診療の中核を担っております。

消化器グループは消化管(食道、胃、小腸、大腸)、肝臓、膵臓、胆嚢とお腹の疾患を中心に診療を行っております。がん診療連携拠点病院という立場から、消化器がんに対しては内視鏡治療から(放射線)化学療法まで幅広く診療しております。また肝疾患診療連携拠点病院として沖縄県内の肝臓病診療の特徴を把握し患者さんへ情報提供するなど、多くの活動を行っています。

さらに2019年度から当施設で可能になった肝臓移植診療に関しても、肝臓内科の立場から外科と協力しながら診療に取り組んでおります。

### 特色・得意分野

- 肺癌診療  
(沖縄県がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院)
- 呼吸器内視鏡全般(日本呼吸器内視鏡学会認定施設)
- HIV診療(エイズ診療中核拠点病院)
- 第一種、二種感染症指定医療機関  
(新型コロナウイルス感染症も含む)
- 炎症性腸疾患  
(潰瘍性大腸炎、クローン病など)
- 早期消化管癌内視鏡治療
- 肝移植関連
- 小腸カプセル内視鏡
- ウイルス性肝炎



## 第二内科

〔診療科長〕  
益崎 裕章

主な  
対象疾患

- 内分泌疾患(甲状腺、副腎、脳下垂体、副甲状腺、性腺、骨など)
- 糖尿病(1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、内分泌疾患に伴う糖尿病、遺伝子異常に起因する糖尿病)
- 脂質異常症
- 肥満症
- 白血病
- 悪性リンパ腫
- 造血不全
- 凝固異常疾患
- 関節リウマチ
- 全身性エリテマトーデス(SLE)
- 強皮症
- 多発性筋炎/皮膚筋炎
- シェーグレン症候群
- ANCA関連血管炎
- 自己炎症症候群など



### 診療内容

第二内科は内分泌代謝グループ、血液グループ、膠原病リウマチグループの3つのグループで構成されています。これらの疾患は互いに重複するケースも少なく、正確な診断と最善の治療を組み立てる上で、この3領域をひとつの内科が担当する意義は極めて大きいものがあります。内分泌代謝グループは副腎や脳下垂体、甲状腺や副甲状腺、性腺などに生じる種々の内分泌疾患、糖尿病、肥満症、脂質異常症、高尿酸血症などに対して、大学病院にしか出来ない専門的で高度な診療を行っています。これらの疾患の共通点として、ひとつの臓器の異常に留まらず、全身の臓器に病気を引き起こすことが挙げられ、『全身を診る内科』を信条として病態や合併症の科学的評価に基づいた最適な治療を提供しています。血液グループの一日あたりの平均入院患者数は20名に達し、白血病・悪性リンパ腫・造血不全・凝固異常などに対する専門診療や全国規模の新規治療薬の臨床試験にも多数、参加しています。同種移植を中心とした造血幹細胞移植は年間20例に達しており、2020年7月からは厚生労働省が定める造血幹細胞移植推進拠点病院に選定され、移植後のフォローアップシステムの構築や幹細胞移植医療に携わる医療スタッフの育成にも注力しています。全身性の自己免疫疾患である関節リウマチに代表される膠原病は症状の多様性や個人差が大きく、熟練の内科医ですら、診断・治療法の選択に迷う事があります。膠原病リウマチグループには沖縄県全域から診断がつかない原因不明の関節痛や筋肉痛、発熱に見舞われる患者さんを多数、御紹介戴いており、精密な診断と的確で最高レベルの医療の提供を実践しています。

### 特色・得意分野

- 糖尿病診療ではインスリンポンプ療法や持続血糖測定器を用いた先進的血糖モニタリング診療を実践し、術前血糖管理や糖尿病教育に活かしています。
- 家族性高コレステロール血症に代表される遺伝性脂質異常症に対する専門的診療を実践しています。
- 肥満症診療では脳科学の最新知見を踏まえた減量プログラムを実践し、高度肥満症に対する肥満外科治療の実施を準備中です。
- 内分泌疾患の診療では大学病院ならではの専門性の高い高度医療を実践しています。
- 血液グループの過半数以上を女性医師が占め、女性医師が輝く教室として全国レベルで高い評価を戴いています。
- 成人T細胞白血病リンパ腫、急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に対する最先端医療を実践し、自家末梢血幹細胞移植、血縁/非血縁同種幹細胞移植、臍帯血移植を精力的に推進しています。
- 膠原病リウマチ診療では最新の国際基準に準拠した最先端の診療を実践し、関節エコーを用いた関節リウマチ・類縁疾患の関節炎の定量的評価を診療の質の向上に役立てています。



## 第三内科

〔診療科長〕(代行)  
岩淵 成志

主な  
対象疾患

- 虚血性心疾患
- 心不全
- 不整脈
- 肺高血圧
- 弁膜症
- 高血圧症
- 慢性腎臓病
- 血液透析
- 神経・筋疾患
- 脳卒中



### 診療内容

第三内科は「循環器」、「腎臓・高血圧」、「神経・脳卒中」の3つのグループで診療を行っています。それぞれのグループで診療にあたる代表的疾患は、循環器グループは虚血性心疾患や心不全、不整脈、弁膜症、腎臓グループは糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、神経グループは神経変性疾患、脳卒中などが挙げられます。

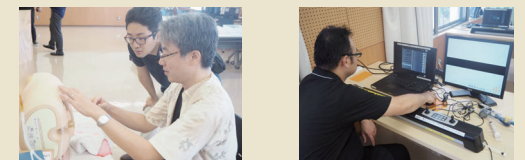
第三内科の3つのグループで診る疾患には共通した特徴があります。高血圧に代表される生活習慣病に基づく動脈硬化を背景としている疾患が多く、心臓、腎臓、脳の疾患が同時に合併し問題になることもよく経験します。専門とする臓器は異なりますが、血管の病気を中心に診るという点で第三内科は3つのグループ間で連携して速やかに治療を行う事ができます。

一般的な診療に加えて、特殊な治療も行っています。特に、平成25年10月より本邦でも始まった重症大動脈弁狭窄症の患者さんに対する経カテーテルの大動脈弁置換術(TAVI)は、心臓血管外科とチームを組んで行っており症例数が増えています。高齢者や他の合併疾患のため開胸手術が困難な症例に行われます。

以上より、第三内科は血管を健全に保ち、心、腎、脳を守ることを目指し診療を行っています。これらの疾患でお困りの際には是非ご相談ください。

### 特色・得意分野

- 冠動脈・弁膜症カテーテル治療
- 心不全治療
- 心臓リハビリテーション
- 不整脈治療(カテーテルアブレーション)
- 肺高血圧治療
- 高血圧治療
- 腎疾患に対する腎生検検査と治療
- 神経筋疾患の診断と治療
- 脳梗塞急性期治療



## 第一外科

〔診療科長〕  
高槻 光寿

主な  
対象疾患

- 消化管・肝胆膵悪性腫瘍および良性疾患(炎症性腸疾患、胆石症など)
- 乳腺・甲状腺疾患、小児外科疾患(小児悪性腫瘍、先天性疾患など)
- 肝移植を要する肝疾患



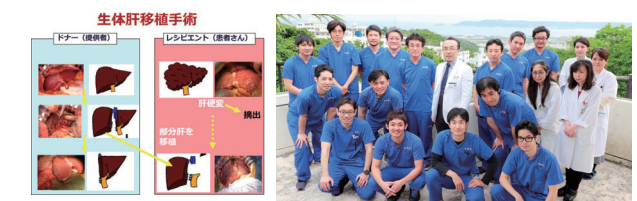
### 診療内容

主に癌の手術を行っています。癌以外にも業で治すことのできない病気の手術を担当しています。担当領域は、消化器外科(食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆嚢(胆管)・膵臓)、乳腺・甲状腺、小児外科、と幅広く、県内唯一の特定機能病院として、最先端・高難度手術を行う『沖縄最後の砦』の役割を担っています。各領域で専門性の高い医師が治療を担当し、沖縄で全てのことを完結できる体制を整えておりますので、他の病院で難しいと判断されるような場合でも、とりあえずご相談いただければと思います。

小さい傷でからだへの負担が少ない『腹腔鏡手術』も積極的に行っています。手術は怖いと思われるのですが、手術の前に十分検査して安全性を確認し、患者さんとご家族に納得していただいたうえで治療を行うようにしております。また、手術だけでは治すことが難しい場合も、大学病院としての総合力で、内科の先生や放射線科の先生たちと協力して色んな治療を組合せ、長く元気で過ごしていただくための最善の治療を行うことができます。手術後は、患者さんの家に近い担当医の先生と連携を取り、万全の体制でフォローするようにしております。“患者第一”をモットーに、最先端で安全な治療を提供致します。

### 特色・得意分野

- 標準手術に加え、以下のような高難度・先進的治療を行っている。
- 1. 上部消化管：食道癌に対する胸腔鏡下食道根治切除など
- 2. 下部消化管：直腸癌に対する腹腔鏡下での肛門機能温存手術・骨盤内臓全摘術など
- 3. 肝胆膵：肝癌、肝門部胆管癌、進行膵癌などに対する高難度手術、肝移植など
- 4. 乳腺・内分泌：乳房温存手術、形成外科との合同手術、甲状腺手術など
- 5. 小児外科：各小児腫瘍、先天性疾患の手術、腹腔鏡による手術など



# 第二外科

〔診療科長〕  
古川 浩二郎

主な  
対象疾患

- 成人心臓疾患
  - ・冠動脈疾患
  - ・弁膜症
  - ・重症心不全
  - ・先天性心疾患

- 大動脈疾患
  - 大静脈疾
  - 患肺腫瘍・縦郭腫瘍
  - 末梢血管疾患



## 診療内容

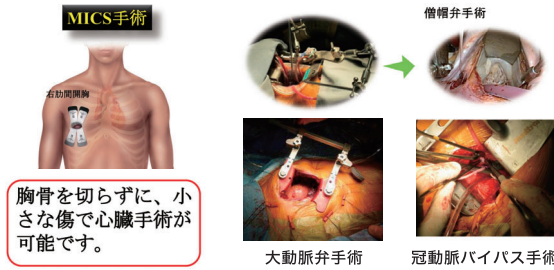
生活習慣の欧米化に伴い、動脈硬化症を病因とした心臓血管・胸部外科領域の症例も増加しています。更に近年の高齢化社会を反映して、他疾患を合併する重症患者も増加しており、診療にあたって緊急性が求められることも少なくありません。琉球大学病院の使命の一つは、沖縄県の基幹病院として専門領域での高度な先進的医療を提供することにより地域医療へ貢献することです。通常発生頻度の高い疾患に対する豊富な診療経験を基盤として、その上に、より高度先進医療を提供し、真に患者の為の医療を提供すべく努力し地域医療の発展に貢献しています。

当診療科では、血管内治療・鏡視下手術・レーザー治療等の手術低侵襲化と、径カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)・補助心臓治療などの重症患者への先進治療の両端の治療を遂行しています。低侵襲治療は現代医療における最も重要なキーワードであり、心臓血管・呼吸器外科領域でも治療戦略上の大きな流れです。当科では、弁膜症、大動脈疾患、冠動脈疾患、呼吸器外科疾患に対して積極的に低侵襲手術を行っています。

沖縄県内で全ての心臓血管外科及び呼吸器外科治療が完遂できることを目指し、継続して努力・研鑽することで、地域医療へ貢献したいと考えています。

## 特色・得意分野

- 低侵襲心臓手術(MICS):  
僧帽弁手術、大動脈弁手術、冠動脈疾患のMICS手術。
- 経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI):標準手術困難な高齢者に対する大動脈弁手術治療。
- 重症心不全患者に対する心移植までの補助心臓治療(VAD)。
- 大動脈手術にける低侵襲なステント治療(EVAR, TEVAR)。
- Budd-Chiari 症候群に対する拡大再建術。
- 呼吸器外科手術における鏡視下手術(VATS)。
- 重症下肢虚血に対する救肢を目的とした血行再建術。
- 透析患者に対する複雑なシャント増設と長期維持管理。



# 産科婦人科

〔診療科長〕  
青木 陽一

主な  
対象疾患

- 子宮頸がん
- 子宮体がん
- 卵巣がん
- 月経異常
- 性分化異常
- 習慣性流産
- 不妊症
- 子宮内腫瘍
- 子宮筋腫
- 更年期障害
- 骨粗鬆症
- 切迫早産
- 妊娠糖尿病
- 羊水過多症
- 前置胎盤
- 常位胎盤早期剥離
- 一絨毛膜二羊膜性双胎
- 小児・若年癌患者に対する妊孕性温存療法



## 診療内容

### ■婦人科腫瘍部門

すべての婦人科がん(主に子宮頸がん、子宮体がん・卵巣がん・外陰がんなど)に対して、手術、化学療法、放射線療法などの集学的な標準医療を行っています。婦人科がんは若年層や妊婦に発症することもあり、がん治療のみならず、がん克服後の妊娠の可能性を残すこと、卵巣を温存することなどについて患者さんとよく相談し、適切な治療を行うように心がけています。

### ■不妊・内分泌部門

体外受精・凍結胚移植をはじめとした高度生殖補助医療を行っています。また、小児・若年者のがんに対して、がん克服後の妊娠の可能性を残すこととして、卵子・精子・受精卵・卵巣凍結を行っています。

### ■周産期部門

早産や、妊娠高血圧症候群などのハイリスク妊娠の管理、糖尿病や甲状腺疾患などの内科的合併症妊娠の管理を行っています。リスクがあっても、安心して出産に望めるように、NICU、助産師、ときには地域の保健師さんなどと協力して診療にあたっています。

## 特色・得意分野

産科婦人科は女性特有の疾患や女性器腫瘍、妊娠、出産を中心に、女性のライフサイクルに関わる診療科です。女性の社会進出により女性が初めて妊娠する年齢が上昇し、不妊症の患者さんが増加し、妊娠中や、妊娠前にかんにかかるかたも増加しています。女性の生き方が大きく変わること、それぞれの病気に対する治療の方向性も変わってきました。最新のエビデンスを実行するとともに、患者さんの希望を中心に据え、それぞれに最も適した治療を行っていくよう心がけています。

### ■内視鏡手術部門

子宮筋腫や子宮内腫瘍をはじめ、子宮頸がんや子宮体がんなどの悪性腫瘍に対しても、傷の小さな腹腔鏡手術が可能となっています。子宮鏡では、お腹を切らずに子宮内の病気を手術することが可能です。傷が小さいことで、術後の回復や社会復帰を早めることが可能です。



# 小児科

〔診療科長〕  
中西 浩一

主な  
対象疾患

- 小児腎臓疾患
- 遺伝・代謝疾患
- 小児血液・腫瘍性疾患
- 未熟児・新生児疾患
- 小児リウマチ・膠原病

- 小児内分泌疾患
- 小児神経疾患
- 小児アレルギー疾患
- 小児感染症



## 診療内容

小児科は小児期における腎臓疾患、遺伝性疾患、代謝性疾患、血液・腫瘍性疾患、新生児疾患、リウマチ・膠原病、内分泌疾患、神経疾患、アレルギー疾患の専門分野を持ち、多様なこどもの疾患に対する専門診療を行っています。

新生児領域の診療は主に周産母子センターで実施し、小児科対象疾患の診療は小児科病棟で実施しています。また、小児血液・腫瘍疾患領域では沖縄県内で唯一、こども達の造血幹細胞移植を行っています。

長期の入院となることも多いため、病棟内には病棟保育士2名が常駐し、日々の診療における患者さんとご家族の癒やしを心掛けるとともに、病棟の行事としてクリスマス会、ハロウィン、夏祭り会などを開催して、できる限りの楽しい時間を創造しています。さらに、病棟心理士も1名常駐し、こどもの心理的サポートを行うなど、医師・看護師のみでなく多職種でサポートを行う事で、入院生活が有意義な時間になるように努めています。

病棟内に森川養護学校訪問学級が開設されており、小児科病棟患者さんをはじめ、各科に入院加療中の就学児が通学し、小学生から高校生まで、こども達の状況、体調に合わせた就学支援を行っています。

一方で、地域のかかりつけ医の先生方、地域の乳幼児健診、学校健診などと連携を図りながら幅広い年代のこども達を対象としたトータルケアを行う施設として、日々診療にあたっています。

## 特色・得意分野

- 小児腎生検
- 小児腎臓病治療管理
- 遺伝学的検査・遺伝カウンセリング
- 新生児マススクリーニング診療
- 造血幹細胞移植
- 小児がん患者フォローアップ診療
- NICU・周産母子センター
- 新生児フォローアップ診療
- 小児希少・未診断疾患イニシアチブ(IRUD-P)
- 免疫抑制剤・生物学的製剤治療
- 脳波検査・長時間ビデオ脳波モニタリング
- てんかん性疾患治療管理
- 内分泌負荷試験
- ホルモン補充療法
- 食物アレルギー経口負荷試験



# 脳神経外科

〔診療科長〕  
石内 勝吾

主な  
対象疾患

- 脳腫瘍
  - ・髄膜腫・神経膠腫・下垂体腫瘍
  - ・悪性リンパ腫・聴神経/前庭神経腫瘍
  - ・転移性脳腫瘍
  - 脳血管障害
    - ・脳出血・くも膜下出血・脳動脈瘤
    - ・頸動脈狭窄・脳動脈静脈奇形
- 機能性疾患
  - (顔面けいれん、三叉神経痛)
  - 小児脳疾患
    - (先天性疾患、脳血管障害、脳腫瘍)
    - その他
      - (頭部外傷、水頭症、脊椎疾患)



## 診療内容

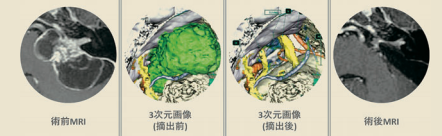
琉球大学医学部脳神経外科では、主に髄膜腫・神経膠腫・転移性脳腫瘍・神経鞘腫・聴神経腫瘍・下垂体腺腫などの脳腫瘍と、脳動脈瘤・脳動脈静脈奇形などの血管障害、および顔面痙攣・三叉神経痛などの機能的疾患の診療にあたっています。

手術治療は、顕微鏡下開頭手術だけでなく、内視鏡手術、化学療法、定位的放射線治療などを組み合わせ、患者様の生活の質を重視した集学的治療を行っています。また、手術治療には脳機能を最大限に温存するために、術中の脳機能モニタリングや術前の大脳機能マッピングなどを取り入れ、安全かつ有効な手術療法を実践しています。また、ナビゲーションシステムや血管内手術などの最先端の技術を駆使して、手術の安全性を高める努力を続けております。

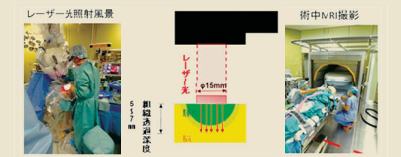
先進医療として2014年より厚生労働省「抗悪性脳腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査」を実施しています(年間数十例)。

## 特色・得意分野

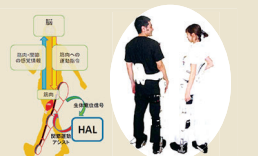
- 頭蓋底腫瘍や高難度手術に対する脳機能モニタリングを用いた画像誘導手術



- 悪性脳腫瘍(グリオーマ)に対する集学的治療、光線力学療法



- 先端リハビリテーション  
ロボットスーツHALを用いた四肢マヒや重度障害者に対する機能回復、脳賦活術の実施



- VR(バーチャル・リアリティ)を用いた手術戦略の構築





# 整形外科

〔診療科長〕  
西田 康太郎

主な  
対象疾患

- 脊椎疾患全般
- 骨軟部腫瘍
- 四肢の関節障害
- 手の障害
- 骨折や捻挫などの外傷・スポーツ障害
- 関節リウマチ
- 小児の骨関節発達障害や変形
- 骨粗鬆症
- 末梢神経障害



## 診療内容

整形外科は運動器の治療・研究を行う診療科です。運動器とは、我々の体を自由に動かすために必要な脊椎、四肢骨、関節といった骨格にはじまり、それを動かし支持する筋肉や靭帯と神経系から成り立っています。

治療対象となるものは、小児の発達障害や変形から高齢者の変性疾患まで、非常に幅広い疾患を含みます。具体的には骨折や捻挫などの外傷やスポーツ障害、骨軟部の腫瘍性疾患から骨粗鬆症、四肢の関節障害から関節リウマチ、頰椎から骨盤に至る脊椎／脊髄障害から末梢神経障害まで実に多様な疾患が含まれます。手術手技に関しても、非常に繊細な microsurgery から、人工関節や脊柱変形矯正に代表されるダイナミックな手術まで様々な手術が存在します。

私たちは診断、保存的治療から切り札としての手術、さらにリハビリテーションまでを一貫して担当します。高齢社会の到来により整形外科のニーズは高まる一方です。



## 特色・得意分野

- 脊椎腫瘍、脊柱変形(小児、成人)、骨粗鬆に伴う脊椎障害
- 悪性骨・軟部腫瘍切除後の骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植
- 早期社会復帰が可能な徹底した合併症予防対策と低侵襲人工関節置換術
- 小児の下肢変形矯正・脚延長および運動機能改善
- リウマチ患者の関節破壊予防と機能改善手術
- 肩・膝・足関節鏡を用いた治療、アスリートに対するメディカルサポート
- 上肢先天疾患、腫瘍&外傷における関節鏡、マイクロを用いた形態・運動機能再建手術



# 形成外科

〔診療科長〕  
清水 雄介

主な  
対象疾患

- 頭頸部悪性腫瘍(頭頸部再建)
- 乳房欠損(乳房再建)
- 四肢リンパ浮腫
- 眼瞼下垂(老人性、先天性)
- 顔面神経麻痺
- 顔面骨骨折
- 口唇裂
- 小児先天性疾患
- 漏斗胸
- ケロイド
- 小児先天性疾患
- 小耳症



## 診療内容

琉球大学病院の形成外科が目指すもの、それは完成された手術です。形成外科は、先天異常や外傷、腫瘍切除後など、足りない組織を他の組織で補う手術を中心としています。完成された手術とは、手術後に変形や機能が正常に再建され、採取した部分に対しては低侵襲で、しかも傷跡が跡形なく再生されているものです。このような夢のような手術を完成させるのは先のこととなりますが、体表面の血管解剖の理解に基づいた皮弁の改良や、昨今の再生医療に基づいた新たな知見の導入などにより、機能的にも整容的にも満足のゆく、完成された手術に一步一步近づけてきています。

私達の診療を受けられたすべての患者さんにご満足いただける医療を提供できるよう心がけております。

## 特色・得意分野

- 頭頸部悪性腫瘍術後の再建手術
- 乳癌術後の乳房再建手術
- 目の周りの手術(老人性眼瞼下垂、先天性眼瞼下垂)
- 顔面神経麻痺に対する様々な手術
- 婦人科がん後の下肢リンパ浮腫に対するリンパ管細静脈吻合術
- 先天性小児疾患に対する手術(小耳症、漏斗胸、口唇裂)



# 皮膚科

〔診療科長〕  
高橋 健造

主な  
対象疾患

- 悪性黒色腫
- カポジ肉腫
- 成人T細胞白血病・リンパ腫
- 尋常性乾癬・乾癬性関節炎
- 掌蹠膿疱症
- 化膿性汗腺炎
- 頭部血管肉腫
- 全身性エリテマトーデス・多発性筋炎、限局性強皮症・全身性強皮症、血管炎症候群)
- アトピー性皮膚炎
- 円形脱毛症
- 特発性後天性全身性無汗症



## 診療内容

琉球大学皮膚科では、角化症・乾癬、膠原病、水疱症、皮膚悪性腫瘍などあらゆる皮膚の病気に対する診断、治療を行っています。特に膠原病、皮膚悪性腫瘍、角化症・乾癬、食物アレルギーの専門外来を設けて難治性疾患の治療に取り組んでいます。また、遺伝子解析で遺伝性皮膚疾患や原発巣不明の皮膚癌の診断も行っています。

加えて、沖縄で多い、頭部血管肉腫、カポジ肉腫、色素性乾皮症、背部弾性線維腫、ハンセン病、さらには学童に蔓延する薬剤抵抗性のアタマジラム症など、沖縄の公衆衛生に寄与すべく、これらの病態解明や治療に取り組んでおります。

## 特色・得意分野

- 乾癬や化膿性汗腺炎などの炎症性皮膚疾患に対する生物学的製剤の導入
- 乾癬性関節炎・掌蹠膿疱症関連骨関節炎の診断、治療
- 悪性黒色腫に対する手術、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬による治療
- 皮膚筋炎や全身強皮症などの膠原病の診断、治療
- 食物依存性運動誘発性アナフィラキシーなどの特殊な食物アレルギーの診断
- 特発性後天性全身性無汗症の診断・治療
- ハンセン病の診断・治療
- 皮膚リンパ腫の診断、治療
- 原発不明の皮膚癌の遺伝子診断



# 腎泌尿器外科

〔診療科長〕  
齋藤 誠一

主な  
対象疾患

- 前立腺癌
- 腎癌
- 膀胱癌
- 精巣癌
- 副腎腫瘍
- 膀胱尿管逆流症
- 先天性水腎症
- 尿道下裂
- 後部尿道弁
- 尿管異所開口
- 腎移植(腎不全)
- 膀胱瘤
- 尿管結石
- 過活動膀胱
- 間質性膀胱炎



## 診療内容

### ■診療科の特徴

新生児から超高齢者までのあらゆる年齢層を対象とし、低侵襲治療を心がけています。泌尿生殖器系癌、腎移植、小児泌尿器科、尿路結石、内分泌疾患(副腎腫瘍)、神経泌尿器科(排尿障害)、骨盤臓器脱(女性泌尿器科)、LOH 症候群、男性不妊症など扱う分野も広汎です。

### ■腹腔鏡下手術(Da Vinci 手術を含む)の積極的導入

泌尿器腹腔鏡認定医が増えるに従い、扱う手術の守備範囲も広がってきました。Da Vinci 膀胱全摘除術(RARC)は、新型コロナウイルス感染症が落ち着き次第開始予定です。

### ■泌尿生殖器系癌の治療

扱う疾患の中で最も多く、内科的(癌免疫療法、分子標的薬治療、抗がん剤)・外科的治療(腹腔鏡手術、開放手術)、放射線療法を行っています。

## 人材育成

医療を存続させる上で、人材育成は最も大切な使命であり、診療科全体で取り組んでいます。例として、泌尿器腹腔鏡認定医の育成を2009年より取り組み、2012年から2020年までに琉大で新たに10名が認定医を取得(うち5名が30歳台)しました。移植認定医は新たに2名、小児泌尿器科認定医は新たに2名取得しています。

## 特色・得意分野

- 腹腔鏡手術
  - 腎摘除術(腎癌)
  - 副腎摘除術(副腎腫瘍)
  - 後腹膜腫瘍摘除術
  - 仙骨腫固定術(LSC)(骨盤臓器脱[POP])
  - ドナー腎採取術(生体腎移植)
  - 腎盂形成術(先天性水腎症)
- ロボット支援下腹腔鏡手術(Da Vinci 手術)
  - 前立腺全摘除術(RARP)
  - 腎部分切除術(RAPN)
- 泌尿生殖器系癌に対する内科的・外科的治療及び放射線療法(放射線科へ依頼)
  - 腎癌・尿路上皮癌(膀胱癌・上部尿路癌)
  - 前立腺癌・精巣癌・陰茎癌・副腎癌・後腹膜腫瘍(脂肪肉腫など)
  - 腎移植(生体、献腎)
  - 小児泌尿器科(尿道下裂、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、異所性尿管開口、脊髄膜腫術後の管理など)
  - 小線源療法(前立腺癌)
  - 尿路結石(内視鏡治療)
  - 骨盤臓器脱(LSC, TVM)
  - 排尿障害(過活動膀胱・間質性膀胱炎など)
  - LOH 症候群(男性更年期障害)



# 耳鼻咽喉科

〔診療科長〕  
鈴木 幹男

Otorhinolaryngology

## 主な対象疾患

- 頭頸部良性、悪性腫瘍(甲状腺がん、口腔がんを含む)
- 慢性副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎
- 慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎 ■耳硬化症
- 耳小骨奇形 ■メニエール病 ■顔面神経麻痺
- 突発性難聴 ■小児難聴 ■音声障害 ■嚥下障害



## 診療内容

ご紹介を受けた難治性疾患に高度医療を提供しています。小児難聴では、乳幼児聴覚スクリーニングシステムを構築し、診断後の治療までスムーズに移行できるような体制を整えています。頭頸部領域は感覚器であるとともに、摂食・発声・呼吸など重要な機能を担っているため、腫瘍の治療に精通した頭頸部癌専門医が形成外科医、放射線医、腫瘍内科医、歯科医師と共同して治療を行っています。

この他に炎症性疾患(中耳炎、副鼻腔炎、扁桃炎など)、アレルギー性鼻炎の手術治療、免疫療法を行っています。

当科ではめまい・難聴などの神経耳科疾患から悪性腫瘍まで広い守備範囲をカバーし、患者様の期待に応えるべく日夜活動しています。

## 特色・得意分野

- 機能的な中耳手術・内視鏡下中耳手術(真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎、耳硬化症、耳小骨奇形など)
- メニエール病診断・治療(内リンパ嚢手術、中耳加圧療法など)
- 小児・成人人工聴覚器手術(人工内耳・人工中耳手術)
- 聴能・言語訓練、突発性難聴に対する高気圧酸素治療
- 鼻副鼻腔疾患(腫瘍、炎症)の内視鏡下手術(ナビゲーション手術)
- アレルギー性鼻炎の免疫治療、手術治療
- 音声障害、嚥下障害の診断、リハビリ、手術治療
- 頭頸部腫瘍治療(機能・形態再建手術、動注化学療法併用放射線治療)
- 睡眠時無呼吸手術
- 扁桃手術



# 眼科

〔診療科長〕  
古泉 英貴

Ophthalmology

## 主な対象疾患

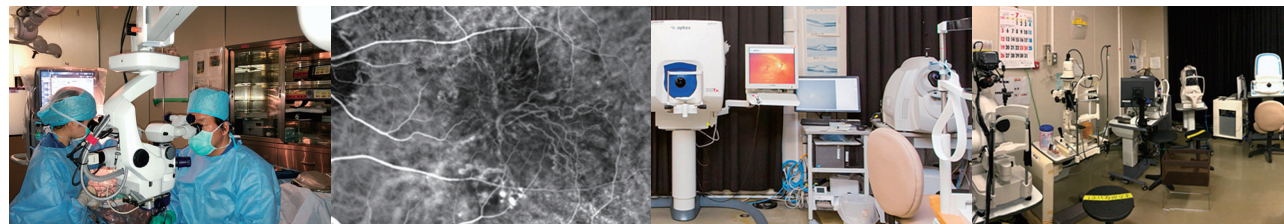
- 網膜硝子体疾患(加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜剥離、網膜静脈閉塞症、黄斑前膜、黄斑斑孔など)
- 緑内障
- 白内障
- ぶどう膜炎
- 角膜疾患
- 神経眼科疾患
- 小児眼科疾患
- 未熟児網膜症



## 診療内容

視覚から入る情報は実に80%にも及ぶと言われており、視機能の低下は生活の質(QOL: Quality of life)の低下に直結します。当科は、高度な視機能の低下からくるQOLの低下を防ぎ、その人らしく生活できるように最良の治療を提供することを目指しています。

眼科には視機能を脅かす疾患が多岐にわたりますが、当科は緊急性の高い網膜硝子体疾患や、有病率の高い緑内障などの診療を得意としています。最先端の医療機器を配備し、地域の医療施設と連携しながらその患者さんにとって最良と考える医療を提供しています。また県内での治療を完結すべく、その他重篤な疾患に関しても専門外来を設け、地理的な面を克服するようにしております。



## 特色・得意分野

- 網膜硝子体疾患に関しては教授の専門であり、日本でも最先端の治療を提供しています。
- 最先端の医療機器を配備して、適切な診断、治療を行い、今後の治療のエビデンスも創出しています。
- 緊急性の高い疾患に対しても、即日対応できる体制を整えています。
- 高い技術で難易度の高い手術もこなし、適切で安全な手術を行っています。
- 硝子体手術、難症例の白内障手術、緑内障手術を得意としています。

# 精神科神経科

〔診療科長〕  
近藤 毅

Neuropsychiatry

## 主な対象疾患

- 気分障害(うつ病・双極性障害)
- 統合失調症
- 認知症(アルツハイマー型、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型)
- 不安障害(パニック障害、全般性不安障害、社交不安障害)
- 神経発達症(自閉スペクトラム症・注意欠如多動症)
- 摂食障害(神経性無食欲症・神経性大食症)
- 睡眠障害



## 診療内容

琉球大学病院精神科神経科では、診断困難例や治療抵抗例が多く紹介されてきます。うつ病の鑑別診断には近赤外スペクトロスコーピー検査を行い、重症度の高い治療抵抗性うつ病には修正型電気痙攣療法により高い寛解導入率を得ています。また、当科では小児思春期専門外来を開設し、小児の発達障害や児童思春期の不安障害への対応に取り組んでおり、当院の認知症疾患医療センターとの協働により高齢者の各種認知症疾患の相談・鑑別診断・治療対応に備えているほか、当院他科に入院されている患者さんの精神面のサポートを行うリエゾンチームも活動しています。



## 特色・得意分野

- 治療抵抗性うつ病の鑑別診断と寛解導入治療(近赤外スペクトロスコーピー、パルス型電気痙攣治療機器)
- 児童思春期における神経発達症(発達障害)や不安障害の診断・治療およびフォローアップ
- 摂食障害への包括・集約的な治療(身体管理、個人・集団精神療法、家族療法)
- 認知症の高度鑑別診断(脳波、CT、MRI、心筋シンチグラフィ、DAT スキャン、SPECT)
- 精神疾患を有する方の身体合併症治療(透析治療、手術)

# 放射線科・部

〔診療科長〕  
村山 貞之

Radiology

## 主な対象疾患

- 悪性脳腫瘍
- 頭頸部がん
- 甲状腺がん
- 肺がん
- 肝細胞がん
- 前立腺がん
- 転移性骨腫瘍
- 動脈瘤
- 胃静脈瘤
- 血管奇形
- 肺動静脈瘤
- 子宮筋腫
- 胎盤ポリープ
- 消化管出血
- 喀血
- 外傷による出血
- 産科出血
- 画像検査が進行されたあらゆる疾患



## 診療内容

放射線科は放射線診断学、放射線治療学が一体となった診療科です。CT、MRI、PETなどの最新医療機器を用いて画像診断を行い、また適応に従って放射線治療、核医学治療、画像下治療(IVR)を行っています。

画像診断は、全身のあらゆる疾患が対象で、画像から考えられる疾患、病態の判断を行います。放射線治療は、放射線を照射することで主に悪性腫瘍を治療する、非外科的治療法の1つです。最新の治療技術を用いた放射線治療を行い、副作用や合併症の少ない治療が達成できています。

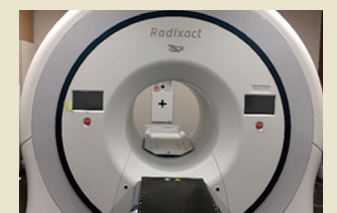
画像下治療では血管造影、超音波、CTなどの画像検査装置を用いて、患者さんに侵襲の少ない治療を行っています。当科では根治治療から緩和医療まで、幅広く治療を行っています。

## 特色・得意分野

- 放射線診断、核医学：CT、MRI、RI、PET 検査を管理し、撮影された画像に対する読影レポートの作成を行います。また核医学では甲状腺がんに対する放射性ヨウ素内服療法も行っています。
- 放射線治療：定位放射線治療、強度変調放射線治療、密封小線源療法、遠隔操作式密封小線源療法などを用いて、腫瘍に対する放射線治療を行います。また照射によって、がんによる出血の止血、転移性骨腫瘍による疼痛の緩和を行います。
- IVR(画像下治療)：腫瘍に対する動注、血管奇形・動脈瘤に対する塞栓術、外傷性出血や術後出血、消化管出血、喀血、産科出血、子宮筋腫などに対する塞栓術、大動脈ステント留置後のエンドリークに対する塞栓術、CTガイド下生検・ドレナージを行っています。



超高精細 CT (Aquilion Precision)  
当院には、現時点で世界最高峰の空間分解能(0.15mm)を誇る超高精細 CT が設置されています。外来患者さんの CT 撮影は来院当日中に行っています。



Tomotherapy Radixact  
外照射は Tomotherapy Radixact と Clinac iX、腔内照射は microSelectron HDR v2、前立腺がんに対する塞栓術は VariSeed を使用しています。

# 麻酔科

〔診療科長〕  
垣花 学

Anesthesiology

主な  
対象疾患

- 外科系手術を受ける全ての症例
- 慢性難治性疼痛患者



## 診療内容

琉球大学病院麻酔科は、当院で1年間で行われる麻酔管理が必要なおよそ4000例の症例を対象に、全身麻酔や脊髄も膜下麻酔（いわゆる下半身麻酔）を担当しています。当院には18名の麻酔専門医ならびに9名の後期研修医が所属しており、沖縄県内で最も多くの麻酔科医が診療にあたっています。

さらに、手術室外で麻酔科医の技術が必要とする診療への協力も行っています。我々麻酔科医は常に患者さんが安全かつ快適に手術を受けられるように、ひとりの患者さんに対して2名以上の麻酔科医が医療行為を提供できるようにしています。また、これからの麻酔医療を担ってくれる後期研修医に対しても沖縄県内で最も優れた教育体制とプログラムを実践しています。

## 特色・得意分野

- 全ての外科手術症例に対する周術期管理
- 快適な術後を送れるような疼痛管理
- 集中治療医学的思考をもった重症患者への周術期管理



# 歯科口腔外科

〔診療科長〕  
中村 博幸

Oral and Maxillofacial Surgery

主な  
対象疾患

- 口腔腫瘍 ■ 口唇口蓋裂
- 顎変形症・骨格性不正咬合 ■ 外傷
- 顎骨嚢胞・腫瘍 ■ 顎関節疾患 ■ 唾液腺疾患
- 神経性疾患 ■ 障がい者歯科疾患



## 診療内容

歯科口腔外科の担当する領域は顎口腔領域に生じた先天性・後天性の疾患です。その病態は様々で、歯が原因となるものから、顎発育に関する異常、悪性腫瘍、顎骨骨折などの外科的対応が必要なものや、口腔領域以外の疾患に関連した口腔粘膜異常や神経痛、唾液の分泌障害のように内科的対応が必要なもの、高次機能障害による摂食障害に対する口腔リハビリまであります。

当科では日本口腔外科学会認定・認定医・専門医による適切な診断、外科治療と、日本障害者歯科学会認定・認定医による一般歯科医院での対応困難な患者様への歯科医療を提供しています。また、言語聴覚士による構音訓練、摂食機能訓練や歯科衛生士による周術期の患者様への口腔ケアも行っています。

## 特色・得意分野

1. 骨格性不正咬合に対する顎矯正治療
2. 広範囲顎骨支持型補綴装置による歯科インプラント治療、顎補綴治療
3. マイクロスコープを用いた歯内療法・歯根端切除術
4. 口唇口蓋裂患者への口腔管理一貫治療
5. 口腔腫瘍の診断、治療
6. 智歯（親知らず）抜歯
7. スペシャルニーズデンティストリー（障がい者歯科）
8. 周術期口腔ケア
9. 摂食訓練



# 病理診断科

〔診療科長〕  
和田 直樹

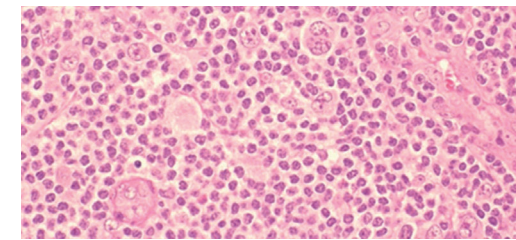
Diagnostic Pathology

主な  
対象疾患

- 偏りはありませんが、全臓器のほとんどの疾患が対象です。

## 診療内容

病理診断科は、他の臨床科と異なり、直接患者さんを診察することはほとんどありません。検査や手術で患者さんから採取された病変に関して、顕微鏡をはじめ様々な手法を用いて分析し、病気の特徴を把握することを主な業務としています。その結果を臨床科に還元する形で、診断や治療に間接的に関わっています。特に、悪性腫瘍、いわゆる「がん」の診断においては最終診断を担っています。また、不幸にして患者さんが亡くなった際には、解剖（病理解剖）を通して病気の原因を正確に把握します。このことは診療施設の質の改善に大きく寄与します。



## 特色・得意分野

- 顕微鏡による病気の「形態」の評価のみならず、遺伝子解析など、先端技術を用いて正確な診断につなげています。
- 複数の経験のある専門医（病理専門医）によるダブルチェックを含めた診療体制により診断の質を高めています。



# 救急科(部)

〔診療科長〕  
久木田 一郎

Emergency and Critical Care

主な  
対象疾患

- 敗血症(重症感染症) ■ 外傷 ■ 脳卒中
- 心筋梗塞・狭心症 ■ 中毒
- 環境障害(熱中症、減圧症など)
- 刺・咬傷(犬・ねこ、ハブ、コウモリ咬傷など)



## 診療内容

当救急部は2014年12月に完成した「救急災害医療棟」にあり、外来は広い処置室2床と観察室4床、2診察室、病棟は6床(E-HCU)を有し、災害医療にも備えています。

所属・併任・出向医師15～18名、看護師も2020年度に増員され、救急外来に15名、救急病棟に26名となり、うち救急認定看護師1名、特定行為研修受講済3名を含みます。救急車受入れ数は年々増加し、年間2,000台以上、全患者数8,000以上となっております。

当院の救急医療体制は初期から3次の重症救急患者までを受け入れますが、県の医療計画でも3救命救急センターと共に3次相当の救急病院とされ、重症の救急患者に比重を置いた部門となります。

## 特色・得意分野

1. 大学病院の救急部としては珍しいER型（初期から3次まで）救急
2. 当院災害医療の中核
3. 東西1000kmの医療圏の救急医療
4. 他診療科との協力体制
5. 多くの研究を進行させ、最先端の救急医療を実施



## リハビリテーション科(部) (診療科長) (代行) 大屋 祐輔

Rehabilitation Medicine

主な対象疾患

主に以下の疾患をもつ入院患者へのリハビリテーションを提供しています。

- 運動器疾患(外傷、四肢・関節・脊椎疾患、骨軟部腫瘍の手術後)
- 循環器疾患(心不全・弁膜症術後) ■呼吸器疾患(慢性呼吸不全・肺癌術後)
- 脳血管・神経疾患(脳卒中・腫瘍・変性疾患)
- がん疾患(手術療法・化学療法・放射線療法)
- ICU / NICU / EICU 疾患、廃用症候群



### 診療内容

沖縄県唯一の大学病院のリハビリテーション研修施設です。診療では入院患者を中心に、外科手術、心不全、呼吸、脳血管疾患などの急性期疾患やがん患者の緩和ケア診療など、様々な疾患に対して患者本人にあったリハビリテーション治療を行います。この他、ロボットスーツ HAL® を用いたロボットリハビリテーション治療や痙縮治療に対するボツリヌス治療やITB 療法も行います。検査では神経伝導検査や嚥下造影検査、心肺運動負荷試験(CPX)等を行います。各科診療科と密に連携をとり、抄読会の開催など、最新の医療に応じたリハビリテーションを提供します。



外来・装具診療

ロボットスーツ HAL

### 特色・得意分野

- 運動器疾患：** 先天疾患や腫瘍摘出術後の四肢機能改善や義肢装具の作製、人工関節置換術後や大腿骨近位部骨折・椎体骨折、その他の外傷に対する早期リハビリテーションを行っております。
- 心血管疾患：** 心大血管疾患術後の ICU での早期離床・介入から心不全後の耐久性の改善など。入院から生活期を見据えた訓練・環境調整を行っております。
- 呼吸器疾患：** 慢性呼吸不全の呼吸リハビリテーションや周術期リハビリテーションを中心に、呼吸困難症状の改善と再発予防などを考慮した訓練を行います。
- 脳血管・脳卒中・脳腫瘍術後の早期介入、ロボットスーツ HAL**
- 神経疾患：** を用いた機能改善や日常生活・社会復帰を目的とした訓練・神経疾患の進行を遅らせるための訓練などを行っております。
- がん疾患：** 「がん」関連の症状や手術・化学療法・放射線療法などの治療に関連した合併症、「がん」の進行に伴う全身状態の変化に対する包括的な診療サポートと患者の QOL を重視したリハビリテーション診療を行っております。

## 中央診療施設等

### 検査・輸血部

〔部長〕  
前田 士郎

Division of Clinical Laboratory and Blood Transfusion



### 診療・業務内容

検査・輸血部は検体検査(生化学・免疫血清、血液・遺伝子、一般細菌)、生理検査、輸血検査を担当しております。

2017年には国際認証 ISO15189:2013 を取得し、高品質の検査結果の提供に努めております。年間 250 万件以上の検査業務を行っており、臨床医ならびに患者様のために迅速、かつ正確な検査報告を行う体制を整えております。



### 手術部

〔部長〕  
鈴木 幹男

Surgical Operation Center

### 診療・業務内容

患者さんの手術に対する不安を取り除き、安全性を担保した手術を提供するために、各診療科医師とともに、麻酔科、看護師、看護助手、臨床工学士、放射線技師、事務職員などが共同して運営しています。手術内容の多様化、高度化に対応し、手術を希望される患者さんの手術待機日数を減らすように努めています。



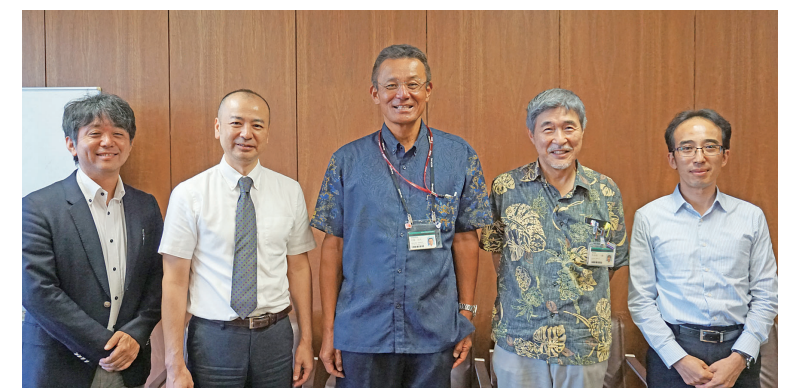
### 地域・国際医療部

〔部長〕  
久木田 一朗

Division of Community Medicine and International Medicine

### 診療・業務内容

地域・国際医療部は、地域医療及び国際医療に貢献するため、病院内外で多岐に渡る活動を行っています。病院内での緩和ケアチーム活動、臨床倫理に関するコンサルテーション支援、総合診療外来、医療の国際化へ向けた体制の構築を担当している他、病院職員や地域の医療従事者に向けた緩和ケア、臨床倫理、臨床研修指導医養成に関する研修を担当し、地域医療を担う人材育成にも取り組んでいます。



# 材料部

〔部長〕  
齋藤 誠一

Central Supply

## 診療・業務内容

材料部は、院内で使用した手術器材や医療器材を再生するための洗浄・滅菌業務と、医療材料の物流管理業務を行っています。医療器材の洗浄・滅菌業務では、第一種滅菌技師 / 第二種滅菌技士の資格を持ったスタッフが、洗浄評価や滅菌評価を行い品質管理に力を入れています。また、物流管理業務では、医療材料の安定供給と効率化によるコスト削減を図っています。



医療器材の目視点検の様子

# 集中治療部

〔部長〕  
垣花 学

Intensive Care Unit



## 診療・業務内容

集中治療部では、特定集中治療室（『特定集中治療管理料1』算定施設）であり質の高い集中した医療を提供できる体制が整備・実践されています。

3名の専従医が各科主治医と共同して全身管理を行い、24時間体制の集中治療を実施しています。主治医・集中治療専従医のみならず、看護師、臨床工学技士、理学療法士・作業療法士、薬剤師などが診療チームを形成し、全ての診療を行っています。



# 高気圧治療部

〔部長〕  
堂籠 博

Center for Hyperbaric Medicine and Environmental Health

## 診療・業務内容

高気圧治療部で行われる高気圧酸素治療は、専用の装置に入り高濃度の酸素を吸入する治療です。その際、気圧を上げた状態となります。治療の対象となる疾患は、腸閉塞、一酸化炭素中毒や減圧症等が挙げられており、最近では年間200名前後以上の方が治療を受けております。

中央診療部である当部では主科となる各科から御連絡をいただき、治療に対応しています。（写真は治療室本体の入り口となります）



# 血液浄化療法部

〔部長〕  
古波蔵 健太郎

Blood Purification Unit

## 診療・業務内容

血液浄化療法部では透析患者のトータルケアのほか手術や特別な治療のため入院が必要になった際に早期退院に向けて様々なサポートを行っています。また、難治性疾患などに対する血漿交換など血液浄化療法による治療を行っています。

専任の医師、看護師、臨床工学士が常駐し他の診療科と協力して個々の患者に最適、最良な治療を提供できる体制を整えています。



# 医療情報部

〔部長〕  
平田 哲生

Medical Informatics

## 診療・業務内容

医療情報部は、琉球大学病院における診療録等の医療データの利活用、及び電子計算機による病院業務の効率化を推進することによって、本院における診療の充実を図り、病情報システムの管理をはじめ、各国立大学病院や地域医療圏との連携をサポートする部門です。医療情報の国際標準化の活動にも参画しております。

# 周産母子センター

〔教授〕 〔センター部長〕  
銘苺 桂子 正本 仁

Maternity and Perinatal Care Center



## 診療・業務内容

### 《 周産期部門 》

年間分娩数約350件、入院患者として年間約250例の産科疾患例、250例の合併妊娠例、30例の胎児疾患例の診療を行っています。

### 《 生殖・内分泌部門 》

年間約400周期の体外受精を行い、移植あたり妊娠率は全年齢の平均が35%と、非常に良好な成績です。それぞれの不妊原因、体調にあわせ、患者さんの希望によりそった治療を行っています。

### 《 新生児部門 》

年間超／極低出生体重児20例以上、新生児人工換気症例30例以上、新生児外科疾患6例以上を診療。脳保護療法や体外循環による臓器代替療法を含めた集中治療をおこなっています。

### 琉球大学病院周産母子センター

周産期部門  
安全・安心なお産をサポート

新生児部門  
小さな赤ちゃんを守る高度な医療

生殖内分泌部門  
高度生殖補助医療による不妊治療

妊娠前から赤ちゃんを授かるまで、医師・助産師・すべてのスタッフが協力して安全・安心な妊娠をサポートします。

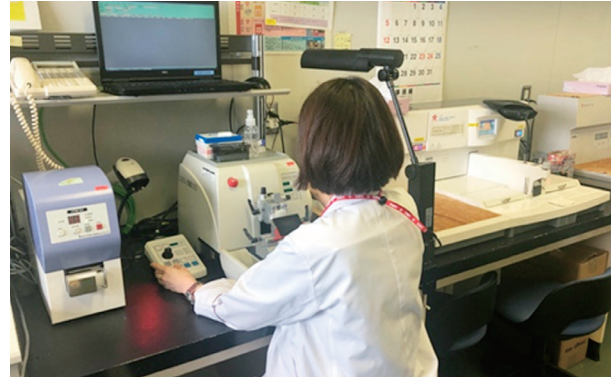
# 病理部

〔部長〕  
加留部 謙之輔  
Department of Pathology

## 診療・業務内容

病理診断に必須な標本作製を行います。患者さんの病変組織は検査や手術で採取されたのち、ホルマリンという薬液に入れた形で保管されます。

病理部ではその病変から診断に必要な箇所を選び出し（切り出し）、3-4 マイクロメートルという非常に薄い切片にして（薄切）、顕微鏡で評価できる形にしております。標本の質は診断の質に直結するため、高度な技術が要求されます。



# 光学医療診療部

〔部長〕  
外間 昭  
Department of Endoscopy

## 診療・業務内容

内視鏡による検査と治療を行う部門です。主に消化器内視鏡と呼吸器内視鏡を用いて、消化管、胆道、膵臓、気管支や肺の病気を診療します。

先進的な小腸カプセル内視鏡、バルーン小腸内視鏡や超音波内視鏡を使用して体にやさしい診断と治療を心がけています。



# 感染対策室

〔室長〕  
藤田 次郎  
Infection Control Room



## 診療・業務内容

感染対策室には、感染対策チームと抗微生物薬適正支援チームがあり、任命された医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務職員など、多職種の職員が、それぞれの専門性を生かし、患者さんや病院内で働く医療従事者や病院を訪れる外来者などすべての人々を感染から守る活動を行っています。

その活動内容は、感染対策及び抗菌薬の適正使用に関するコンサルテーションをはじめ、多岐にわたります。

# 総合診療センター

〔センター部長〕  
藤田 次郎  
General Medicine Center

## 診療・業務内容

総合診療センターは外来部門であり、総合診療外来、禁煙外来、漢方外来等を担当しています。総合診療外来では、武村克哉副センター長（地域・国際医療部）を中心に、適切な初期対応を行ない、もし専門診療科での診療が必要な場合には、当該専門診療科に紹介しています。

受診を希望される方は、かかりつけの先生から紹介状を頂き、医療機関を通してご予約ください。

# 医療の質・安全管理部

〔部長〕  
鈴木 幹男  
Department of Quality Management and Patient Safety

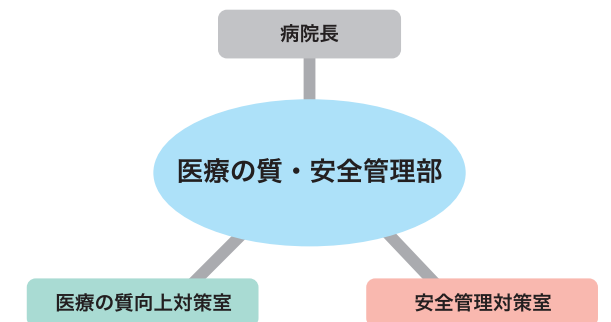


## 診療・業務内容

医療の質・安全管理部は、医療の質の管理及び改善を図るとともに、医療に関する安全管理対策を行うために令和2年4月から発足しました。

私たちが行っている医療の内容を常にモニタリングし、改善点を見つけ患者さんへフィードバックしていきます。また、安全な医療を提供することは病院の義務です。

「人は“誤り”を起こすものである」という認識に立ち、発生した“誤り”が医療事故につながらない医療環境、手順、体制、組織を整えています。



# 安全管理対策室

〔室長〕  
西平 淳子  
Medical Safety Management Room



## 診療・業務内容

安全管理対策室は多職種（医師・薬剤師・看護師・事務職員）が所属し、それぞれの視点を活かしチームで医療安全の向上を推進しています。

医療現場の“主体的で、自主的な、安全な医療に向けた取り組み”を促進するため、現場からの報告を真摯に分析し現場とともに再発防止策を構築します。再発防止策の実施・継続を支援し、安全で最良の医療を提供する医療環境を整えていきます。



# 医療の質向上対策室

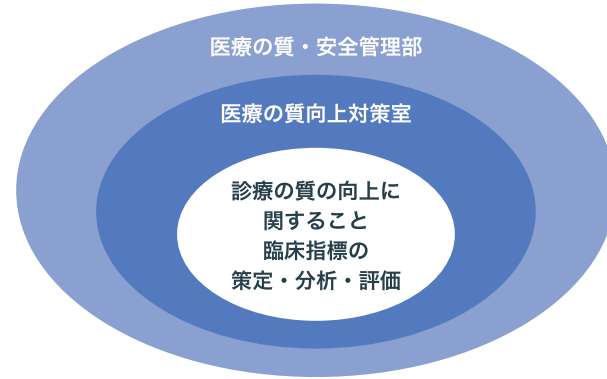
Medical Quality Improvement Room

〔室長〕  
平田 哲生

## 診療・業務内容

当院では安心・安全で高度な医療を提供するよう努めておりますが、さらに医療の質を向上することを目的として医療の質・安全管理部の中に「医療の質向上対策室」を令和2年3月に設置しました。

当院に関するいろいろな指標を病院情報のページで公開していますので、一度ご覧になってください。当院でどのような医療が行われているのかデータで確認することができます。



# 高難度新規医療技術等医療安全評価室

〔室長〕  
鈴木 幹男

## 診療・業務内容

本院で導入予定の「高難度新規医療技術」(本院で実施したことがなく、患者さんに重大な影響を及ぼす恐れのある難易度の高い医療技術)や、「未承認新規医薬品等」(国内での使用が承認されていない医薬品や高度管理医療機器)に関し、適正な手続きのもと医療が提供されるよう、提供の適否を審査・決定し、管理を行う部門として平成29年に設置し活動しています。

### 高難度新規医療技術等 医療安全評価室

- ・高難度新規医療技術等医療安全評価室長
- ・医療安全管理責任者
- ・医薬品安全管理責任者
- ・医療機器安全管理責任者
- ・看護部長
- ・手術部副部長又は手術部に所属する医師
- ・病院長が必要と認める者

# 薬剤部

Department of Pharmacy

〔部長〕  
中村 克徳



## 診療・業務内容

薬剤部には、調剤室、製剤室、薬品管理室、業務室、医薬品情報室、病棟部門、麻薬管理業務、薬剤試験研究室、がん化学療法室、治験部門の部署があります。

患者さんが安心して安全にお薬を使用していただけよう、これらの部署が各診療科と連携して、「薬の専門家」としての業務を行なっています。また、研究、教育、業務をバランスよく遂行しています。



# 看護部

Department of Nursing

〔部長〕  
大嶺 千代美



## 診療・業務内容

「専門的知識に基づいた看護実践を思いやりの心で提供する」という看護部理念のもと、パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS)を導入し、安全で質の高い看護を提供することに努めています。

また、段階的に実践能力を高めるクリニカル・ラダーシステムを基に、充実した教育体制と研修プログラムを用い、スタッフ個々のキャリア形成を支援しています。



# おきなわクリニカルシミュレーションセンター

Okinawa Clinical Simulation Center

〔センター長〕  
大屋 祐輔



## 診療・業務内容

おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、沖縄県の寄付により平成24年3月に琉球大学医学部構内に開設された医療シミュレーション教育施設です。模擬環境を活用することで、医療現場での実践前に手技に習熟する、突発事態への対応とチームワークを予め練習しておくといったトレーニングを通じて、沖縄県内の医療水準の向上に貢献しています。特に医療安全の確保は病院の最も重要な役割のひとつであり、注力しています。



# 沖縄県地域医療支援センター

Okinawa Community Medicine Support Center

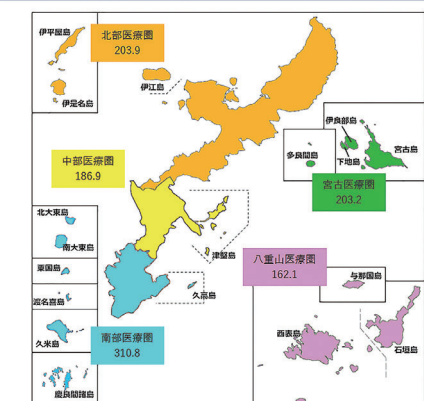
〔センター長〕  
大屋 祐輔



## 診療・業務内容

本センターは平成26年12月1日に沖縄県の委託を受けて琉球大学病院に設立され、地域枠学生の教育及び沖縄県内の医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足病院の医師確保の支援等を行うことにより、医師の地域偏在を解消することを目的とする組織です。

沖縄県二次保健医療圏別医師数(人口10万対)



(資料：沖縄県平成28年衛生統計年報)

## 経営企画室

Planning and Policy Division

室長  
青木 陽一

経営改善の推進のために必要な経営分析を行い、分析結果及び改善課題の解決策と目標等の企画立案に係る業務を行っております。

## 臨床工学室

Medical Engineer room

室長  
青木 陽一

臨床工学室では、臨床支援業務を行い、生命維持管理装置の操作及び点検を実施します。医療機器の専門家として、安全で信頼できる質の高い医療を提供しています。

## ME機器センター

Medical Engineering Center

センター長  
久木田 一郎

当センターは、医療用機器を中央管理化し、保守点検の計画・実施、研修と機器の更新及び新規導入の選定等、機器の安全と効率化を推進しています。

## 遺伝カウンセリング室

Genetic Counseling Unit

室長  
中西 浩一

遺伝カウンセリング室では、病気の遺伝的関与について患者さんおよびご家族が理解し、それに適応していくことを援助します。

## 歯科医師臨床研修支援室

Center for Postgraduate Clinical Training in Dentistry

室長  
中村 博幸

医科との連携による全人的な医療の基本の習得を目指し「全身の中の口腔・歯」を診ることが可能な歯科医師育成を目的とします。



## 口唇口蓋裂センター

Cleft Lip and Palate Center

センター長  
中村 博幸

口唇口蓋裂の患者様が抱える様々な問題について、哺乳、手術、言葉や咬合の治療など各科が協力して一貫した治療を行っています。



## 障がい者歯科センター

Dental Care Center for the Handicapped

センター長  
中村 博幸

かかりつけ歯科で治療が困難な有病者の方を対象に、医科と連携し入院下で全身麻酔や笑気を用いた治療を行っています。

## 臨床研究支援センター

Clinical Research Center

センター長  
植田 真一郎

臨床研究支援センターは、平成18年にそれまでの治験管理室と講座単位で行われていた治験以外の臨床研究支援体制を合体させ、より効率的に臨床研究を支援、推進させるために生まれました。



## がんセンター

Cancer Center

センター長  
増田 昌人

緩和ケアセンター、がん相談支援センター、外来化学療法室の運営およびがんゲノム医療外来、緩和ケア外来、がん看護外来を担当しています。



## 医療福祉支援センター

Medical Welfare Support Center

センター長  
平田 哲生

医療連携、入院支援、患者相談など多岐にわたる活動をソーシャルワーカー、看護師、事務職員、医師が協力し患者さんの支援にあたっています。



## 口腔ケアセンター

Oral Care Center

センター長  
中村 博幸

周術期の誤嚥性肺炎や合併症の予防や抗がん剤・放射線治療による口内炎症時の疼痛緩和を主な目的に治療を行っています。

## 遠隔画像診断センター

Remote Imaging Diagnosis Center

センター長  
村山 貞之

主に、放射線診断画像、病理画像、心電図等の画像を他施設との間で共有、あるいは診断レポートを付す業務を担っています。

## 機能画像診断センター

Functional Imaging & Communication Center

センター長  
村山 貞之

主に F18-FDG を用いた PET-CT 画像の撮影、読影、他施設紹介患者の紹介元への画像、レポート発送、PET 検査業務、臨床研究支援を行っています。

## 総合臨床研修・教育センター

Comprehensive Health Professions Education Center

センター長  
大屋 祐輔

当センターは本院の医療者のキャリア形成を支援し、研修医・専攻医や看護師などの研修・教育において効率的・機動的な運営を行う部門です。



## 栄養管理部

Nutrition Administration Office

部長  
益崎 裕章

チーム医療の一翼を担う部門として「食」を通じ、患者さん個々の病態に応じた栄養管理、栄養教育、入院中の給食管理に関する支援を行います。

## 診療情報管理センター

Health Information Management Center

センター長  
平田 哲生

当センターでは電子カルテシステムの管理・運用、診療記録(カルテ)内容のチェック、医師事務作業補助を担当しています。

## 臨床研究教育管理センター

Center for Clinical Research and Quality Management

センター長  
植田 真一郎

学内外の臨床研究計画立案から試験運営・データ管理・モニタリング・監査・統計解析など様々な支援や、研究者の養成を行なっています。



## 在宅医療推進センター

Support Center for Home Care Medicine

センター長  
久木田 一郎

在宅医療推進センターは、地域の医療従事者を対象とした在宅医療推進のための研修会開催等、在宅医療の支援活動を行っています。

## 超音波センター

Ultrasound Imaging Center

センター長  
岩淵 成志

最新式のエコー機器で、臨床検査技師2名が心臓、血管のエコー検査を行っています。(2019年 1627件)

## 沖縄県認知症疾患医療センター

Okinawa Prefectural Dementia-Related Disease Medical Center

センター長  
近藤 毅

当センターでは、認知症に関わる相談対応、鑑別診断、身体合併症や心理行動学的問題の管理、県内関連機関との連携を行っています。



## 心臓血管低侵襲治療センター

Non-invasive Cardiovascular Intervention Center

センター長  
岩淵 成志

TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)が最も多い治療です。当院はTAVI施行病院であり、日本経カテーテル心臓弁治療学会に九州沖縄には3病院しかないTAVI専門病院として認定されています。専門病院は手術数が多く経験豊富である病院です。

## きこえの支援センター

The Center for Hearing and Speech

センター長  
鈴木 幹男

聴覚障がい見及び聴覚障がい者が、「聞こえ」の障がいを軽減し、社会の中でコミュニケーション豊かに生活していくことを支援しています。

## みらいバンク

Mirai Bank

バンク長  
清水 雄介

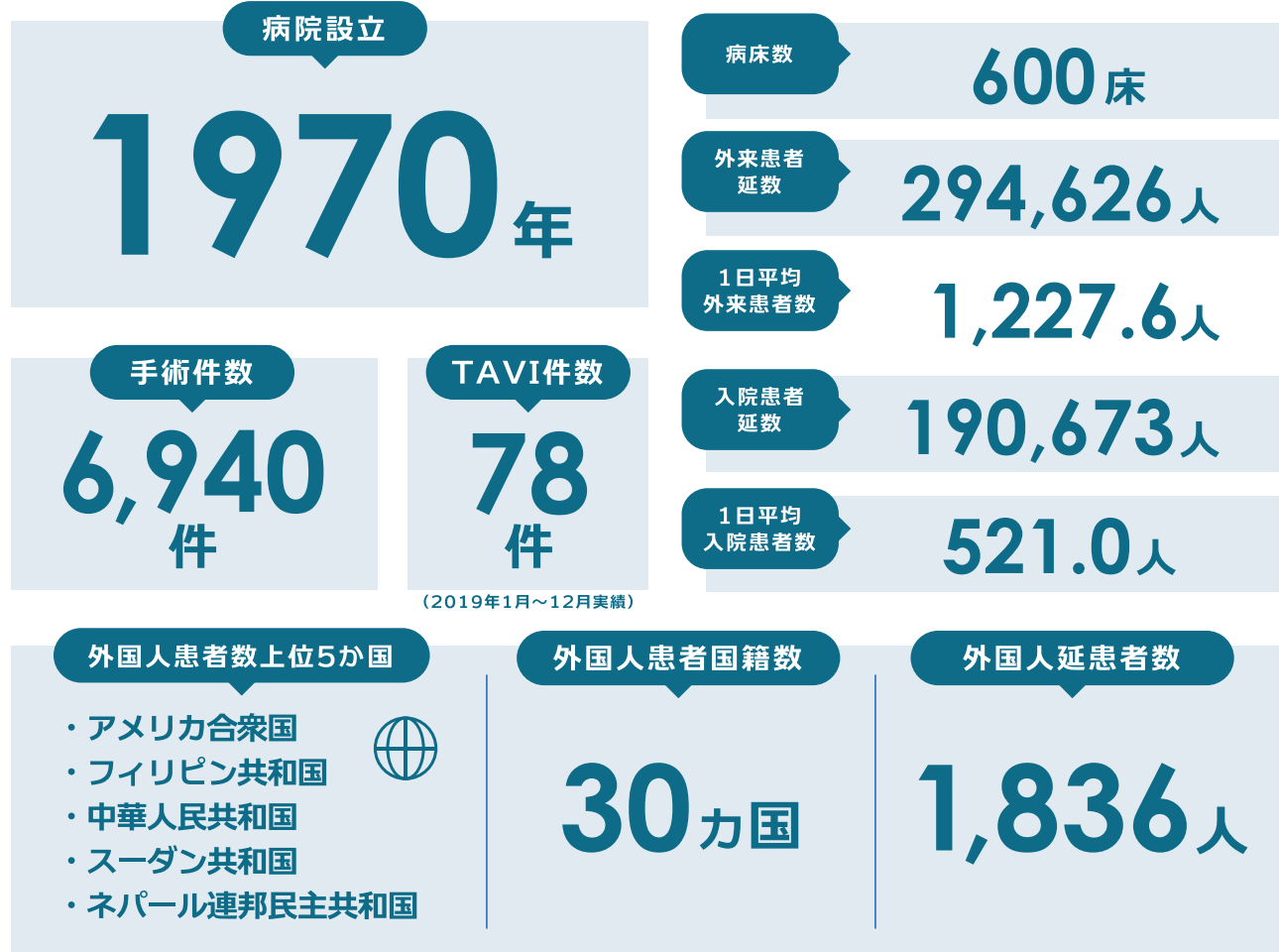
みらいバンクはAMED事業をもとに設立されました。病院と企業の架け橋となり、これまで難しかった「産業利用目的」のヒト組織・細胞の企業への提供を支援致します。



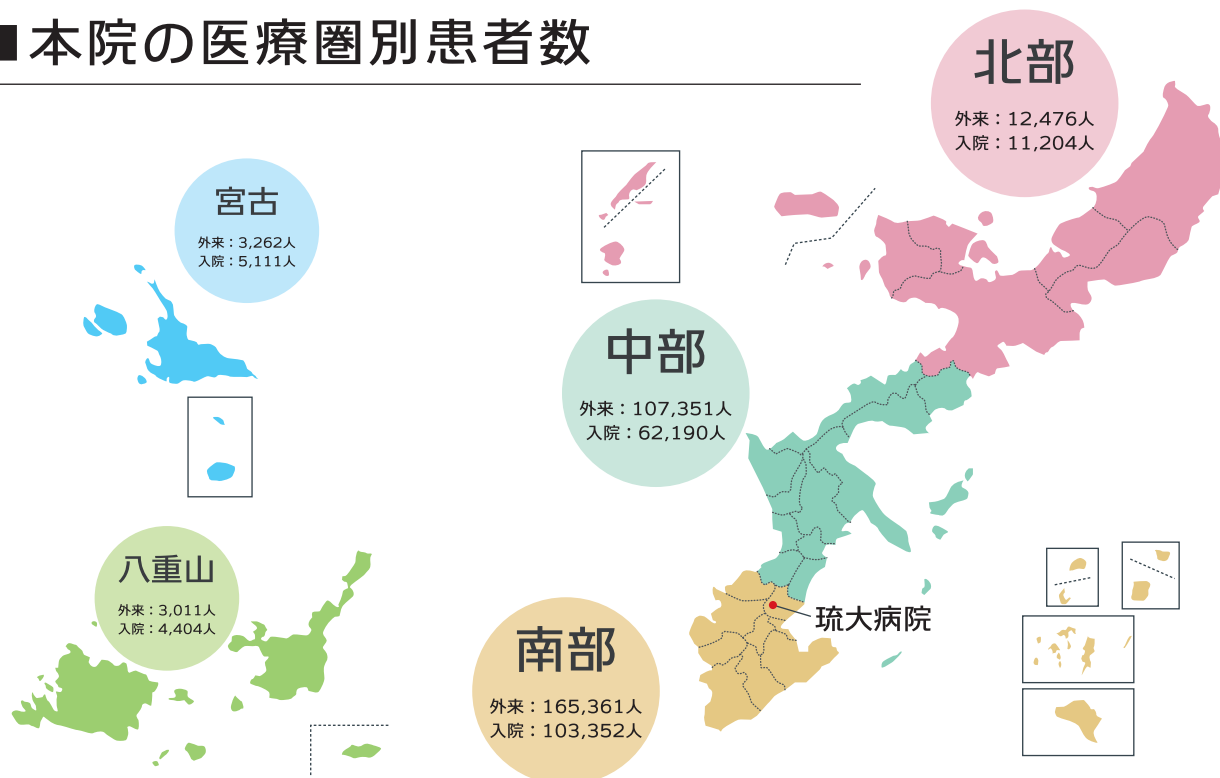


# 数字で見る、琉大病院

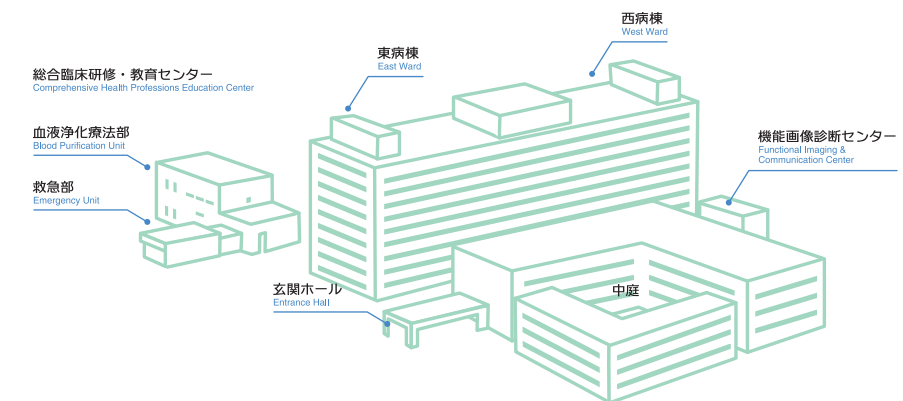
2019年度データ



## ■ 本院の医療圏別患者数



# フロアガイド



# 建物配置図



## 土地及び建物 Site and Floorage of the Buildings

土地及び建物 Area	敷地面積 Site	139,169m <sup>2</sup>
	建物総面積 Total Floorage	98,323m <sup>2</sup>

## 建設年度

名称 Name	建面積 Floorage	延面積 Total Floorage	建設年度 Year of Construction
① 基礎研究棟 Basic Medicine Research Building	962m <sup>2</sup>	7,931m <sup>2</sup>	昭和58.2
② 臨床研究棟 Clinical Medicine Research Building	1,046m <sup>2</sup>	8,436m <sup>2</sup>	昭和59.1
③ 基礎講義実習棟 Basic Medical Lecture Laboratory Building	1,107m <sup>2</sup>	3,074m <sup>2</sup>	昭和57.10
④ 解剖法医棟 Anatomy Legal Medicine Building	577m <sup>2</sup>	1,142m <sup>2</sup>	昭和57.10
⑤ 臨床講義棟 Clinical Lecture Building	609m <sup>2</sup>	1,240m <sup>2</sup>	昭和58.12
⑥ 保健学科棟 School of Health Sciences Building	1,143m <sup>2</sup>	6,252m <sup>2</sup>	昭和58.2
⑦ R I ・動物実験施設 Institute for Animal Research Radioisotope Center	1,395m <sup>2</sup>	3,961m <sup>2</sup>	昭和58.10
⑧ 福利棟（がじゅまる会館） Facilities for Welfare	990m <sup>2</sup>	1,687m <sup>2</sup>	昭和58.3
⑨ 附属図書館医学部分館 Library, Medical Division	761m <sup>2</sup>	1,403m <sup>2</sup>	昭和59.3
⑩ 体育館 Gymnasium	1,247m <sup>2</sup>	1,063m <sup>2</sup>	昭和60.3
⑪ 管理棟 Administration Building	741m <sup>2</sup>	1,967m <sup>2</sup>	昭和59.3
⑫ 第二基礎研究棟 Basic Medicine Research Building II	473m <sup>2</sup>	829m <sup>2</sup>	平成2.3
⑬ 琉球大学病院 University of the Ryukyus Hospital	8,233 m <sup>2</sup>	40,386 m <sup>2</sup>	昭和58.12
⑭ 高エネルギー・高気圧治療施設棟 High Energy Hyperbaric Therapy Unit	734m <sup>2</sup>	821m <sup>2</sup>	昭和59.3
⑮ R I 診療棟 Radioisotope Therapy Unit	338m <sup>2</sup>	624m <sup>2</sup>	昭和62.3
⑯ M R I - C T 装置棟 MRI - CT Unit	705m <sup>2</sup>	709m <sup>2</sup>	平成8.7
⑰ リニアック診療施設棟 Linac Treatment Ward	294m <sup>2</sup>	293m <sup>2</sup>	平成元.3
⑱ 看護師宿舎 Dormitory for Nurses	316m <sup>2</sup>	1,384m <sup>2</sup>	昭和59.3
⑲ 中央設備機械室 Central Facilities Machinery Unit	1,287m <sup>2</sup>	1,647m <sup>2</sup>	昭和58.12
⑳ 総合臨床研修・教育センター Comprehensive Health Professions Education Center	697m <sup>2</sup>	1,284m <sup>2</sup>	平成23.8
㉑ おきなわクリニカルシミュレーションセンター Okinawa Clinical Simulation Center	878m <sup>2</sup>	2,288m <sup>2</sup>	平成24.2
㉒ 機能画像診断センター Functional Imaging & Communication Center	507m <sup>2</sup>	1,952m <sup>2</sup>	平成25.2
㉓ 中央電気室 Central Facilities Electricity Unit	439m <sup>2</sup>	611m <sup>2</sup>	平成25.3
㉔ 救急災害医療棟 Emergency and Disaster Medicine Building	742m <sup>2</sup>	680m <sup>2</sup>	平成26.11
㉕ 再生医療研究センター Regenerative Medicine Research Center	554m <sup>2</sup>	812m <sup>2</sup>	平成27.6
㉖ 駐車場、その他 Parking Place, Others	3,539m <sup>2</sup>	5,847m <sup>2</sup>	
面積計 Floorage	30,314m <sup>2</sup>	98,323m <sup>2</sup>	